

令和6年度
福岡県自主防災組織
リーダー研修会

実施結果報告書

一般財団法人 日本防火・防災協会



はじめに

近年、全国各地で大雨に起因する自然災害が増加しており、本県においても、昨年7月に梅雨前線に伴う豪雨が発生し、甚大な被害が発生しました。また、この時、本県では「大雨特別警報」が発表され、平成25年の運用開始以降、全国最多の通算6回目の発表となりました。

このように本県は、大雨に起因する水害が発生しやすいという地域特性を持っており、水害に伴う被害の軽減のために、県や市町村、関係団体が連携し、各種取組を実施しているところです。

本県においては、災害時に地域防災の要として活動していただく自主防災組織等のリーダーが、「自助」や「共助」の力を高めていく上で、必要となる知識や技術を習得していただくことを目的とし、本研修会を実施しています。

本報告書は、今年度で開催した研修結果をまとめたものになります。各都道府県において、地域防災を推進して行く上の参考として御活用していただければと存じます。

令和6年7月

福岡県総務部防災危機管理局
消 防 防 災 指 導 課 長
中 村 智 弘

目次

第1編 概要	1
1 研修会概要	2
2 研修会次第（カリキュラム）	3
3 実施結果	4
第2編 研修会資料	9
1【講演1】 被災者講演	
「過去の被災を踏まえた防災対策」	11
2【講演2】 被災地支援者講演	
「令和5年7月豪雨の活動報告」	50
3【講演3】 専門家講演	
「避難所の課題と対策」	83
4【演習】 ふくおか防災クロスロード	
「どっちにすると？」	110

第1編 概要

令和6年度福岡県自主防災組織リーダー研修会 概要

1 目的

本研修は、受講者が自主防災組織等で指導的立場として活動していくにあたって、より専門的な防災知識や技能の習得を行い、さらなる地域防災の活性化を行う人材を養成することを目的とする。

2 開催日時

令和6年6月6日(木) 10時00分～16時00分

3 場所

久留米シティプラザ 大会議室(久留米市六ツ門町 8-1)

4 受講対象者

- (1) 自主防災組織等におけるリーダー役になりたての方
- (2) これから自主防災組織等を結成しようと考えている方
- (3) 町内会の役員で地域防災に関する取組みの経験があまりない方
- (4) 市町村の防災関係部署の職員 など

5 受講者数

133名(申込者:153名)

6 研修内容

別添「カリキュラム」のとおり

7 実施主体等

共催:一般財団法人日本防火・防災協会、福岡県

後援:総務省消防庁

令和6年度福岡県自主防災組織・女性防火クラブ等リーダー研修会

【応用編】次 第

<日時・会場>
6月6日(木) 久留米シティプラザ 大会議室

時間	項目	内容	講師等
9:30~10:00	受付	-	-
10:00~10:05	開講	開講・オリエンテーション	消防防災指導課
10:05~10:55	講演	【講演1】被災者講演 「過去の被災を踏まえた防災対策」	医療法人順天堂 順天堂病院 事務長 白濱 好美 氏
11:05~11:55	講演	【講演2】被災地支援者講演 「令和5年7月豪雨の活動報告」	久留米大学 法学部 国際政治学科 教授 松田 光司 氏 (くるめ災害支援ネット「#(ハッシュ)」代表)
12:00~13:00	昼休憩		
13:00~13:50	講演	【講演3】専門家講演 「避難所の課題と対策」	国際医療福祉大学大学院 災害保健医療研究センター副センター長 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 災害医療分野 教授 石井 美恵子 氏
14:00~15:50 ※途中適宜休憩あり	演習	ふくおか防災クロスロード 「どっちにすると？」	司会進行 : 消防防災指導課 アドバイザー: 松田氏、石井氏
15:50~16:00	閉講	閉講・事務連絡	消防防災指導課

令和6年度福岡県自主防災組織・女性防火クラブ等リーダー研修会【応用編】実施結果

1 開催日時・会場

令和6年6月6日(木)10時00分～16時00分

久留米シティプラザ大会議室(久留米市六ツ門町8-1)

2 受講者数

133名(申込者数:153名)

3 研修会の様子



講演(白濱講師)



講演(松田講師)



講演(石井講師)



グループワーク(防災クロスロード)



グループワーク発表

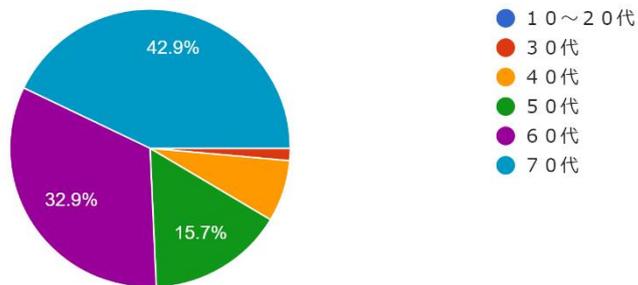


非常食展示

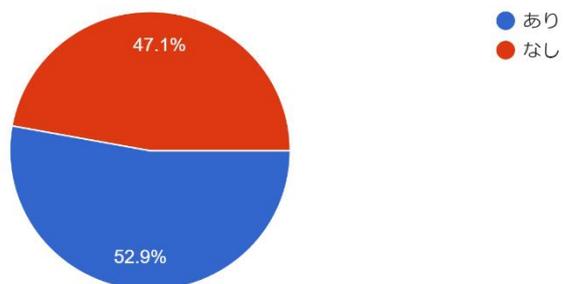
4 受講者アンケート結果

(1) 受講者の状況

年齢
70件の回答

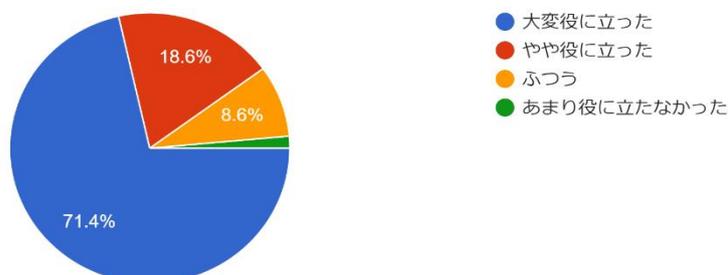


「防災士」の資格の有無
70件の回答



(2) 研修内容について

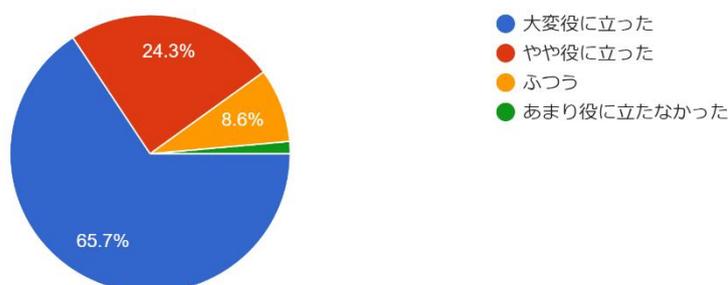
講演1「過去の被災を踏まえた防災対策」について
70件の回答



【意見・感想】

- ・事業所の被災体験を聞く機会がなかったので、実体験が聞けてよかった。
- ・同じ職種だったので、職場で検討会を開催したいと思った。
- ・もっと広く市民の方にも聞いてほしい内容であった。
- ・被災する度に課題を整理し、次の目標をしっかりと定めて改善していける姿勢に感動しました。地域の取組を構築していく際にもとても役立つと思います。
- ・話の核心の部分が見えなかった

講演2「令和5年7月豪雨の活動報告」について
70件の回答

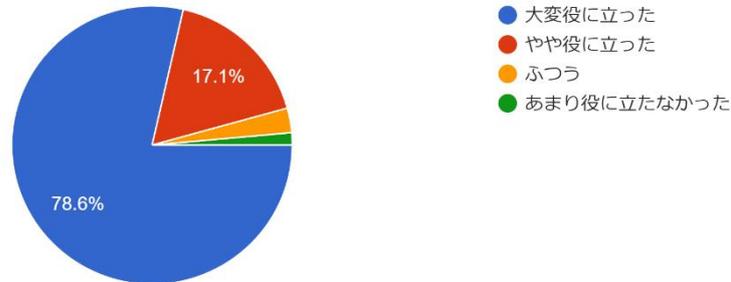


【意見・感想】

- ・ボランティアのつながりを詳細に知ることができてよかった。
- ・ボランティアの力と行動力に頭が下がる思い。ボランティア任せにならない、国の対策も必要と感じた。
- ・今後、災害が起こった際の復旧作業の参考になった。
- ・被災者への寄り添い方がきめ細やかなことに驚かされた。大変な中にも心を大切にすることを忘れてはならないと思った。
- ・説明と写真が乖離しているためイメージしづらかった。もっと写真からイメージできるようなものが必要だと思う。

講演3「避難所の課題と対策」について

70件の回答

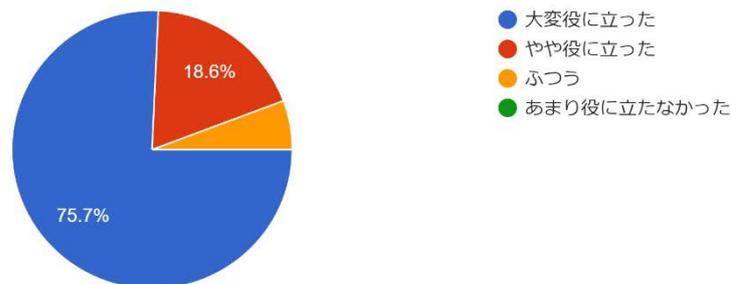


【意見・感想】

- ・人権にまで防災感覚が及ぶ講演が聞けてよかった。
- ・日本の避難所のレベルの低さ痛感した。海外と日本の対応のギャップに愕然とした。
- ・イタリアの避難所の話は目から鱗だった。弱った人に早く立ち上がってもらうためにも人権を尊重した環境が必要だと言う理論は素晴らしいと感じた。行政のせいにするだけでなく自分たちにできることは何かを考えたい。
- ・日本に留まらない様々な視点からのお話やメディアが報じないことを知ることができた。
- ・イタリアの話より日本の課題をどう解決するかが講演からは見えなかった。

グループワーク「ふくおか防災クロスロード」について

70件の回答

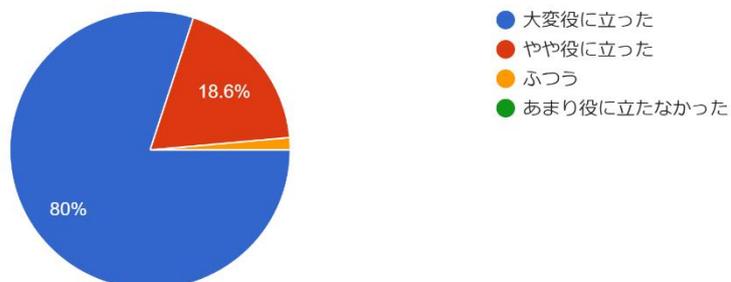


【意見・感想】

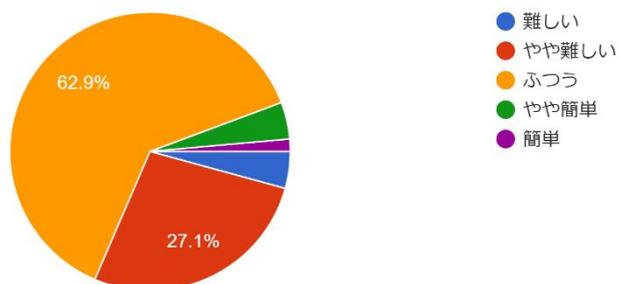
- ・いろいろな意見が聞けて勉強になった。自分の固定概念は捨てねばと考えさせられた。
- ・色々な意見が聞けて、気付かされることも多かった。地域でやってみようと思った。
- ・様々な問題に対して、ディスカッションができた。とても有効な手法だと思う。
- ・自分では思ってもみなかった意見や実績に基づいた感想、実際の行動等を聞いて大変参考になった。
- ・もっと個人の回答が分かるような課題にすべきだった。いろんな意見を聞きたかった。

(3) 研修会全体について

研修会全体について
70件の回答



研修会の難易度について
70件の回答



第2編
研修会資料

～資料の内訳～

1 被災者講演

「過去の被災を踏まえた防災対策」

2 被災地支援者講演

「令和5年7月豪雨の活動報告」

3 専門家講演

「避難所の課題と対策」

4 演習 ふくおか防災クロスロード

「どっちにすると？」

令和6年度福岡県自主防災組織・女性防火クラブ等リーダー研修会
【応用編】 講義資料

被災者講演

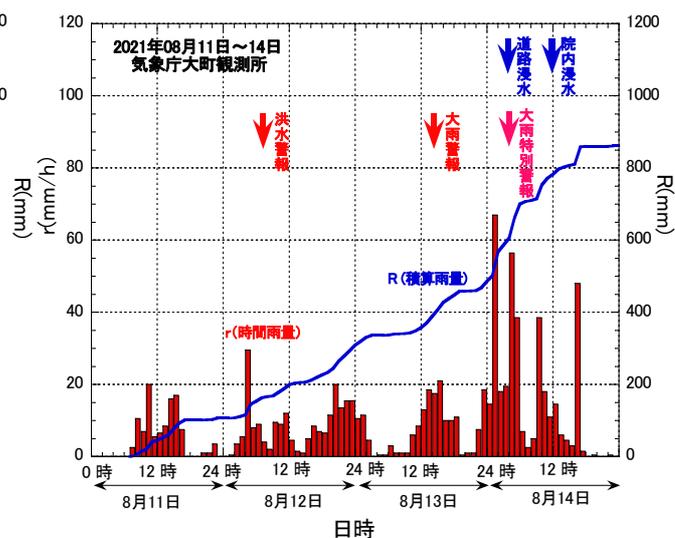
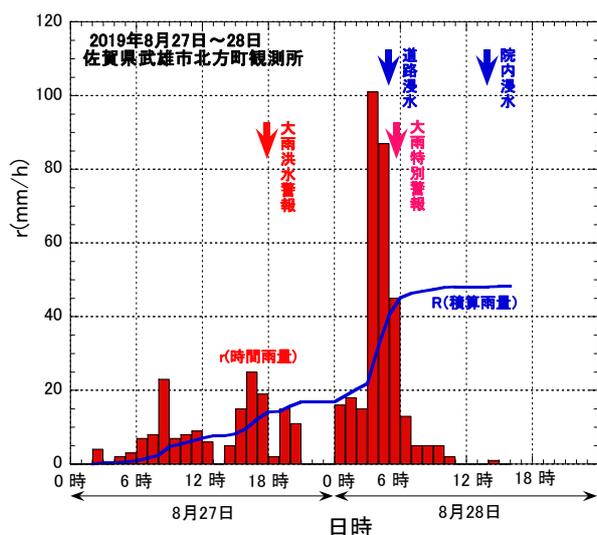
「過去の被災を踏まえた防災対策」

医療法人順天堂 順天堂病院
事務長 白濱 好美 氏

2度の水害における 医療法人順天堂 順天堂病院の 対応について

医療法人 順天堂 順天堂病院
(佐賀県杵島郡大町町)

雨量



2019年8月
3時間で250mmの集中豪雨

2021年8月
4日間で850mmの大雨

対策の概要

- 事前対策
- ・新築移転時 盛土140 c m、電気設備を屋上設置
 - ・2014年 水道管バイパス工事
 - ・2016年 電子カルテサーバ-3F設置、専用発電機
 - ・2017年 垂直避難訓練 以後毎年実施

2019年水害被災 床上25cm

- 対策の実施
- ・垂直避難の時間短縮
 - ・職員連絡一斉メール
 - ・止水板による防水（X線機器の保全）かさ上げetc

2021年水害被災 床上1 m

- 対策の実施
- ・X線検査機器を2Fへ移設
 - ・重要機器の防水、かさ上げetc

当法人の概要



google

当法人の概要

1959年 医療法人 順天堂 設立
1999年 当地へ新築移転

所在地 佐賀県杵島郡大町町

- 順天堂病院
- 介護老人保健施設 敬松苑
- ・ 職員数：170人



当法人の概要

順天堂病院

- ・ 3階建（病棟 2F・3F）
- ・ 115床（医療療養病床）
- ・ 神経難病等慢性期重症患者
医療区分2・3 98%
- ・ 人工呼吸器稼動 40台

介護老人保健施設 敬松苑

- ・ 2階建（療養棟 1F・2F）
- ・ 70床 平均介護度 4.0
- ・ 酸素、吸引、胃ろう等有



水害の想定と対策

■過去の水害

- ・ 1990年（H2）大水害 六角川越水(北方町)
家屋床上浸水多数、工場油流出

■行政の水害対策

- ・ 六角川堤防改修（川幅拡張）
- ・ 排水機場の設置

以降、30年水害は発生していなかった

気象の変化

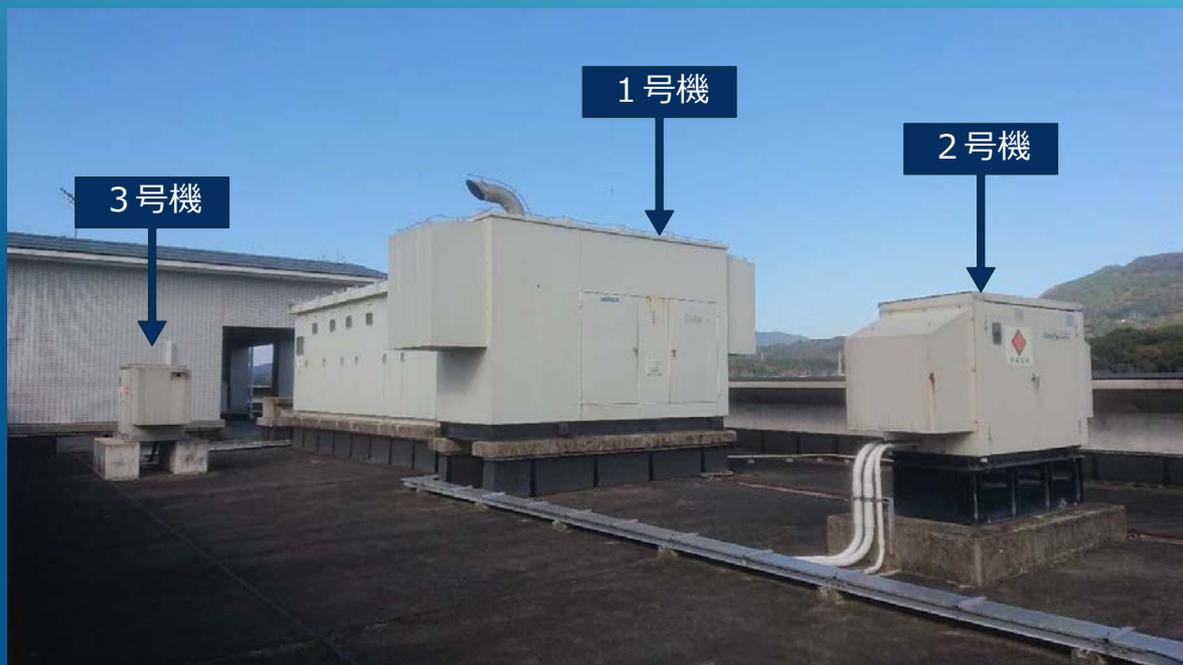
これまでにない集中豪雨が各所で発生

当法人理事長

いつか水害が発生するかもしれない
水害対策を強化する

新築移転時 1999年

- 建 物：盛土140cm 1990年水害で浸水しない高さ
- 電 気：電気設備、発電機は屋上 避雷設備



■ 水：水道水・地下水



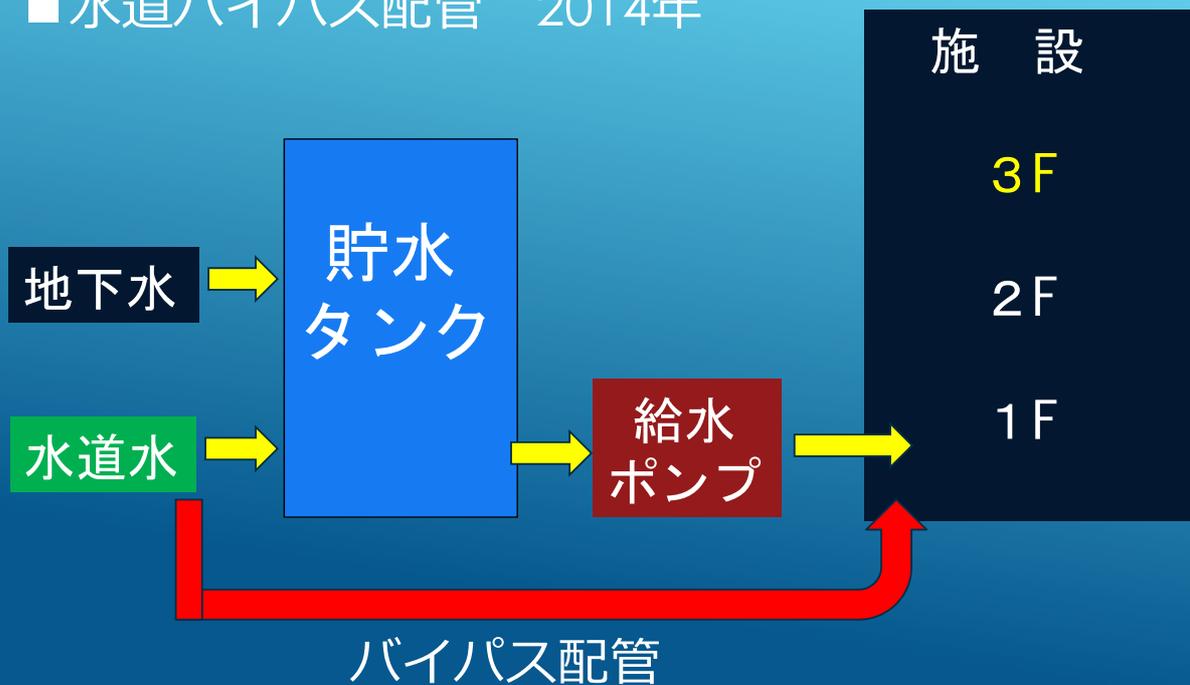
■ 地下水システム

■ 給水加圧ポンプ

- ・ 停止する前に各所で水をためておく



■水道バイパス配管 2014年



その他備品

- ガス：調理用カセットコンロ10台
- 通信（電話）：院内携帯電話配置
夜間は外線TELを病棟携帯電話へ転送
- 非常食：3日分
- 薬品：2週間分（定期処方分）
- 酸素：4日分

避難訓練 2017年～

- 水害避難訓練：毎年6月
老健施設 1Fの入所者30人⇒2Fへ



避難訓練

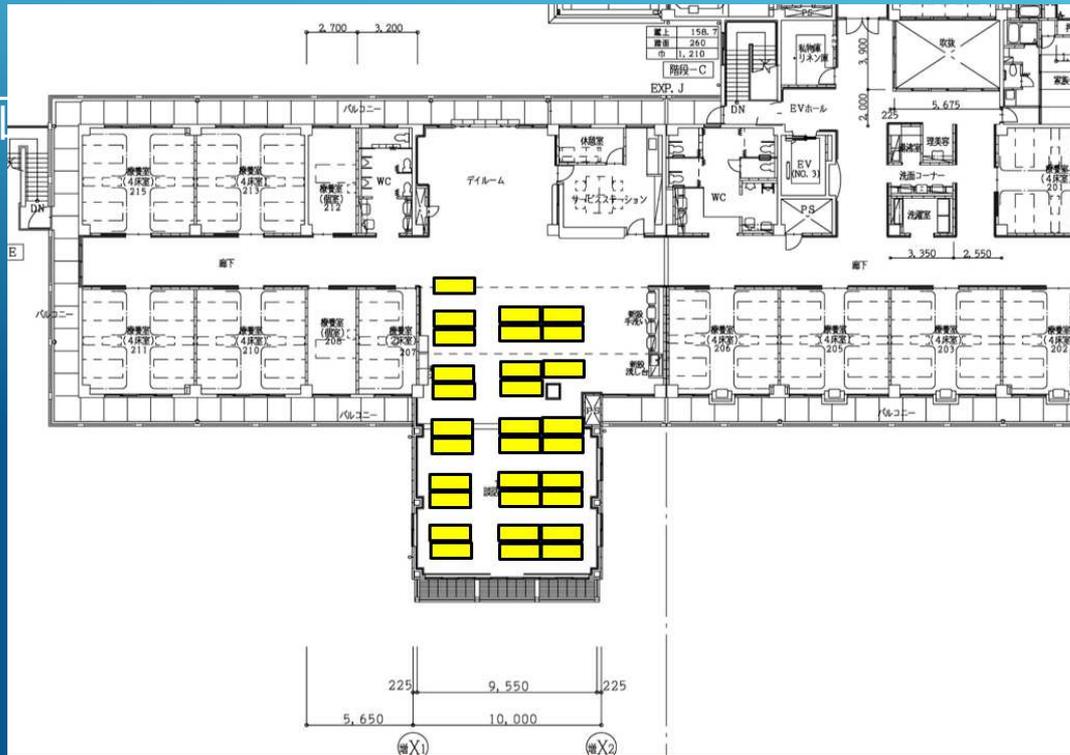
- 車椅子避難 15分
- ベッドのまま避難 60分

(エレベーター 車椅子：4台、ベッド：1台)

職員が少ない夜間、避難するとき

「迷わず、車椅子で避難する」を周知

避難場所



避難手順

水害時の敬松苑利用者避難手順		人数	1	2	3	4	5	6	7
工程	作業の詳細	兼任可否	兼任可			兼任可			
		最小必要数	1F CW	応援 1	応援 2	応援 3	応援 4	2F CW	2F NS
利用者を車椅子で2Fへ移動	電子ロックドアを全開にする	1	○						
	利用者を車椅子へ移乗	2	○	○					
	エレベーターへ移動 1人で車椅子2台	1			○				
	エレベーターへに乗せる	1				○			
	エレベーターから降りる	1					○		
利用者2F食堂に待機 見守り	2F食堂へ移送	1						○	
	利用者食堂に車椅子上で待機、職員見守り	1						○	○
ベッドのスペース2/3を確保	テーブルとイスを西側の壁に寄せる	2	○	○	○	○	○		
	ベッドのコンセントを抜き手前より移動	2	○	○					
	エレベーターへ移動する	2	○	○					
	エレベーターへ乗せる	2		○	○				
	エレベーターから降りる	2				○	○		
ベッドを1Fから2Fに移動する	西側廊下、中央廊下に仮置きする	2			○	○			
	2F食堂へ移送	2	○	○	○	○			
	食堂の東側奥から4台組みで並べる	2	○	○	○	○			
ベッドのスペース残り1/3を確保	台車を用意する (階段下倉庫3、デイス用3、リハ小1、植木用3)	1	○	○					
ソファとテーブルの仮置き	ソファを台車にのせる	2		○	○	○	○		
	ソファをNSステーション横に詰めて置く	2		○	○	○	○		
	テーブルを台車にのせる	2		○	○	○	○		
	テーブルを敬松苑2F廊下西側から詰めて置く。2台重ねる	2		○	○	○	○		
ベッドをすべて並べる	空いた 食堂スペースにベッドを2台組で並べる	2		○	○	○	○		
利用者をベッドへ移乗	利用者を車椅子でベッドに移送する	1		○	○	○	○		
	車イスからベッドに移乗する	2		○	○	○	○		
ベッドの電源を確保	ドラム式コード、延長コードをあるだけ寄せる (屋上倉庫、サーバ室、階段下倉庫)	1		○	○	○	○		
	ベッドのプラグをコンセントにさす	1		○	○	○	○		
ソファとテーブルの置き場所を再配置	敬松苑2F廊下西側へ分散	2		○	○	○	○		
	中央廊下へ分散	2		○	○	○	○		
見守り		3	○					○	○
待機				○	○	○	○		

避難の判断

2017まで

何らかの原因で「排水機が停止したら避難」

情報収集 : 大町町、排水機場へ出向き確認



google

避難の判断の変更

2018.7.6 佐賀県に初の大雨特別警報

当法人 22時頃

- ・ 機器を2階へ移動、排水機が停止したら人の避難

西日本豪雨 岡山県真備町

「堤防が突然崩れて大洪水」

避難基準変更「大雨特別警報が出たら避難」

先に車椅子で入所者を2階に避難させ

後でベッドや機器を移動

水害前日

8月27日（火）（大雨洪水警報）

- ・ 唐津、伊万里地区に大雨
- ・ 明け方に佐賀南部、武雄地区に降る可能性高い

夜間警戒体制

事務長・看護部長・放射線技師長

水害当日

8月28日未明より大雨

- ・ 4時頃 96ミリ（1時間雨量）白石
- ・ 5時 道路冠水 通行不能
- ・ 理事長、事務長状況確認
- ・ 5時47分 理事長 避難開始指示
- ・ 5時50分 大雨特別警報
- ・ 6時00分 老健1Fの入所者避難開始
- ・ 6時27分 避難終了



敬松苑 2階 避難場所



当日の入院患者・入所者・職員数

- ・ 順天堂病院 入院患者 110人
- ・ 敬松苑 入所者 69人
- ・ 職員 35人
(通常の出勤職員数 140人)

器具の移動

浸水でエレベーターが止まる前に

- ・ ベッド : 入所者用
- ・ 医療機器 : 検査機器、全自動分包機等
- ・ 書類
- ・ PC等事務用品

- ・ 社用車、職員の車 : すこしでも高い場所へ



病院 2階 廊下



毎日新聞社提供

佐賀県対策本部：油の流出で汚染防止のため水を排水することができません。この状況は長く続きます。

病院 X線機器

CTスキャン



X線透視撮影装置

関係機関との連絡

- ・ 佐賀県 災害対策本部
- ・ DMAT 佐賀県本部
- ・ 大町町 災害対策本部
- ・ 陸上自衛隊
- ・ 杵藤保健福祉事務所
- ・ 武雄杵島地区医師会

必要なもの：職員をボートで移送してほしい

2日目：8月29日（水）

- ・ 白石警察署、大町町、自衛隊
職員をボートで移送
- ・ DMAT到着
- ・ 院内の清掃開始
- ・ 設備復旧業者ボートで到着

職員の移送



佐賀新聞社提供（2019年8月30日掲載）

大町町 8月29日



国土地理院

DMAT・県職員の方々



当初DMATの目的：入院患者の移動の必要性の確認

重症患者多数・病棟は落ち着いて医療を提供できている
⇒ **籠城** の方針となった。

入院患者・入所者状態

- ・特に支障なく経過
- ・各師長により必要なケアの選別対応
- ・食事介助等手薄な部署へ応援振り分け
- ・病棟、療養棟は終始落ち着いた状態

家族への状態説明

- ・電話が混雑し通じにくい
- ・医師・看護師長よりこちらから電話連絡説明。



自衛隊による物資搬入



3日目 8月30日 (金)

- ・ 職員を自衛隊車両で移送
- ・ DMAT隊撤収
- ・ 夕方 一般車両通行可能
- ・ 酸素運搬補充

4日目：8月31日（土）

- ・職員 車で通勤
- ・内部清掃完了
- ・避難した入所者を1Fへ戻す
- ・保健所検査 厨房使用許可

5日目：9月1日（日）

- ・多くの来訪者 行政関係機関、見舞者等

7日目：9月3日（火）

- ・給水ポンプ、浄化槽ポンプ復旧

13日目：9月9日（月）

- ・外来診療再開、デイケア再開

報道への対応 問合せ多数

- ・当初困惑 取材に応じてられない

「これだけの報道になっていてコメントできないとは困ります。」

「全国に報道されています。患者さんの身内の人も心配しているはず。正確な情報を出されたほうがよいです。」

主な被害状況

- 人的被害：なし（患者、利用者、職員）
- インフラ系
 - ・電気：停電なし
 - ・水：1日断水 給水加圧ポンプ故障
⇒事前に貯水、バイパス復旧
 - ・ガス：問題なし 感知器の異常
 - ・電話：交換器故障 固定電話使用不可
⇒院内携帯電話使用
 - ・エレベーター：停止 ⇒2日後復旧
 - ・交通：通行不可 3日間 ⇒職員ボート移送
- 設 備
 - ・医療機器：CTスキャン、X線TV、一般撮影、マンモグラフィ全損⇒入換え 他リハビリ機器、厨房機器等
 - ・建物：床、壁、建具、書類棚等 水と油の汚染
 - ・社用車：すべて全損⇒レンタカー使用後入換え

有効だった対策

- ・避難訓練
（職員と入所者にイメージができていた）
- ・電気設備の屋上設置
- ・水のバイパス配管
- ・機器の移動訓練
（比較的大型の機器：薬品全自動分包機等）

不足だった対策

- ・職員連絡体制 職員の安全管理
- ・職員移送手段（ボート）
- ・社用車、職員車の対策
- ・浸水に対する対策：重要設備の保護

新たな対策の追加

- 職員の安全確保等
連絡の円滑化：一斉メール導入
職員移送：ボート、ランドクルーザー
- 防水・排水
止水板（出入口、窓、放射線機器区画）
窓のシールド 排水ポンプ設置（10台）
- 設備保全
車両：敷地内全車両を安全な場所への移動
かさ上げ：吸引設備、X線機器の一部
設備の上階への移動手順の詳細化
備蓄の増加：酸素・非常食
電話通信の維持：電話交換機を2Fへ移設



止水板

20カ所設置

ボート
14人乗り



リハビリ機器のシート防水



2021年 8月 水害の状況

前回の状況 2019年8月28日

雨量：1時間当り100ミリ

3時間で250ミリ

工場からの油流出

佐賀県：「油を川に出すことはできない」

⇒ 地域の排水門閉鎖

結果的に床上25cmの浸水

工場の対策説明⇒油流出はない

今後の水害想定：床上50cm浸水で対応

2021年 経過

- 8月上旬 天気予報 1週間連続雨
 - ・7月降水量少なかった
 - ・ニュース：嘉瀬川ダム貯水量の心配
- 8月12日
 - ・降り続く雨、山際に住む人の心配
 - ・2年前の集中豪雨の予報ではない
 - ・六角川の水位高い
 - ・道路冠水の可能性はある
 - ・職員に警戒呼びかけ

経 過

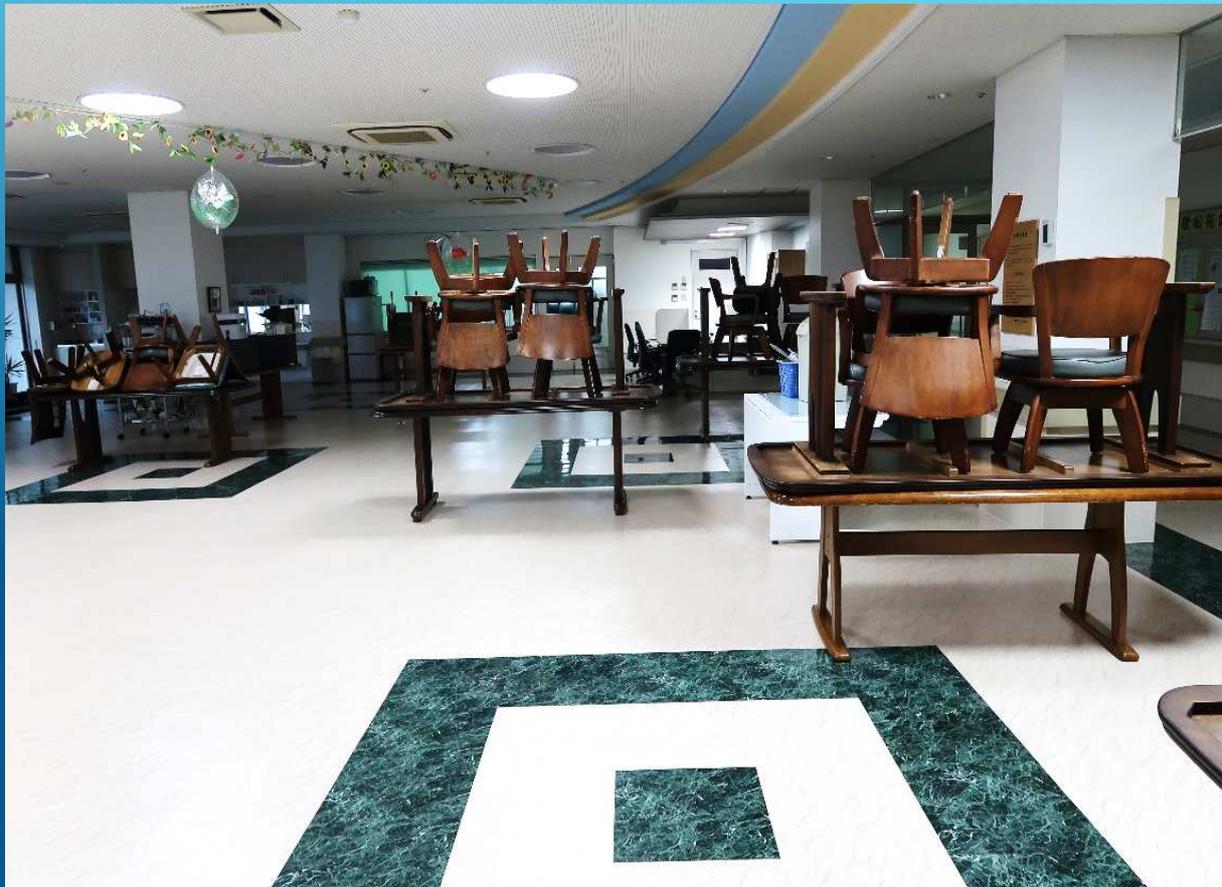
■ 2021年8月13(金) 被災前日

- ・ 物品移動：各部署物品避難（上階、机上等）
- ・ 止水板設置（内部：放射線区画等）
- ・ 17：00～職員車と社用車の移動（分院跡地）

- ・ 夜間待機：通常夜勤者＋7名（院長、施設長、事務長、総師長、栄養部長1、リハビリ2名、看護師1）合計17名







2F職員食堂



2F 手術室



経過

■ 8月14(土) 被災当日

2:00 強雨、排水機場より連絡：排水能力の限界

2:18 理事長へ状況報告

敬松苑 1F入所者の避難命令

2:30 1F入所者避難開始：避難終了(17分19秒)

1Fベッドの移送 (20分)

1F物品避難 (22分)

3:45 道路冠水：外来医療機器、厨房非常食等移動

5:00 一斉メール「道路冠水、近づくことはできない、各自安全確保」



経過

- 6 : 30 当院ボート準備
- 7 : 00 大町町下瀉消防にボート依頼
出勤可能職員（大町・江北）へ連絡
止水板外側設置、薬品分包機移動
- 8 : 30 出勤職員 自動車学校前に集合⇒ボート移動
関係機関へ連絡（医務課、長寿社会課、大町町） EMIS入力
- 9 : 00 職員到着 11名
止水板入口設置、排水ポンプ設置、分電盤防御
エレベータ停止上階待機、外来物品上階へ、
ベッド等（点滴室、内視鏡室）



経過

11:30 屋内浸水

放射線区画の浸水防御、書類等物品の上階避難

12:30 一斉メール

「床上浸水中、入所者と機器避難、油なし。このまま籠城。各自身の安全を最優先に」

15:30 1F職員退避

16:00 酸素室水位確認：酸素転倒なし

断水

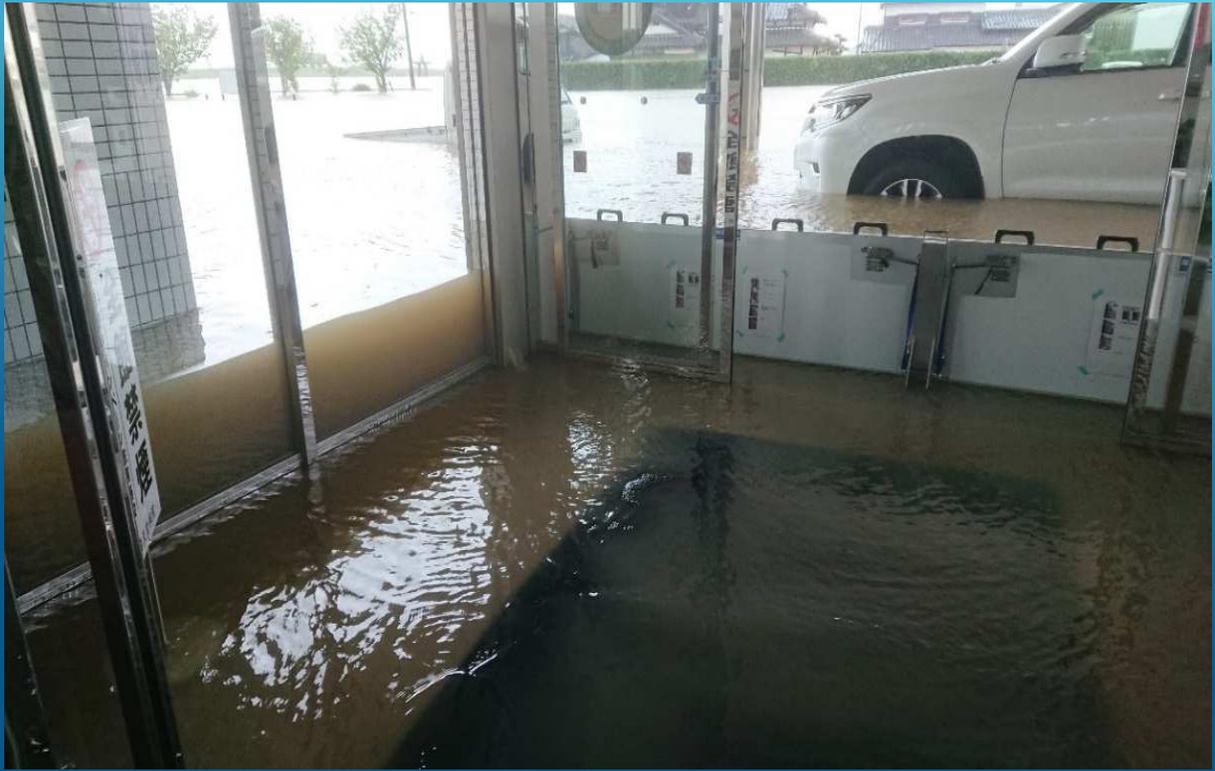
佐賀県医務課へ状況報告、DMAT隊依頼。

17:00 吸引停止：ポータブル器対応

サーバ室より水、非常食搬出、DMAT隊とTEL連絡。

18:30 自衛隊ボートにて林酸素来院
酸素タンクの転倒防止固定







経過

■8月15（日）道路冠水中

6：30被害状況確認、止水版を撤去

9：00 **DMAT到着**

災害対策本部との連絡調整

物資移送段取り：自衛隊ボート

職員、日清医療食材移送

必要備品持参：水、吸引器、衛生用品

12：30 **水道バイパス配管接続 水道復旧**

15：30 **自衛隊ボート 職員交代、DMAT撤収**

18：00 一斉メール「明日の出勤について」

■8月16（月）道路通行可能

職員車で出勤 清掃開始

主な被害状況

- 人的被害：なし（患者、利用者、職員）
- インフラ系
 - ・ 電気：停電なし（一部コンセント、ブレーカー交換）
 - ・ 水：1日断水 給水加圧ポンプ故障、地下水システム停止
⇒事前に貯水、バイパス復旧
 - ・ ガス：問題なし
 - ・ 電話：使用可能
 - ・ エレベーター：3基全て停止
 - ・ 交通：通行不可 2日間 ⇒職員ボート移送
- 設 備
 - ・ 医療機器：MRI、CTスキャン、X線TV、一般撮影、マンモグラフィ、他リハビリ機器、厨房機器等
 - ・ PC端末31台、プリンタ10台、机上機器書類
 - ・ 建物：床、壁、建具、書類棚等
 - ・ 社用車：ランドクルーザー1台

前回の課題と達成度及び課題

有効だった対策

■ 入所者の避難

避難所要時間：27分（2019年8月）

⇒17分（2021年8月）

- ・ 地域排水機場の情報を元に避難開始

■ 職員の安全確保

連絡の円滑化：一斉メール導入 4回発信

冠水孤立時、浸水時、道路開通前日、当日

■ 職員移送：大町町地元消防、自衛隊

（大町町と地元消防に事前に相談）

■ 車両の避難：町内の高台へ事前移動

■ 電気水道の維持

前回の課題と達成度及び課題

不足だった対策

■ 防水・排水

止水板（出入口、窓、放射線機器区画）

⇒ 想定水位越え

窓のシールド

⇒ 想定水位越

排水ポンプ設置（10台）

⇒ 想定水量越

■ 設備保全

X線機器区画の防水

⇒ 想定水量越

かさ上げ：吸引設備、X線機器の一部

⇒ 想定水位越

設備の上階への移動物品詳細化

⇒ 机上物品等想定水位越

新たな対策

■ 浸水想定 床上160cm

■ 垂直避難時間：20分以内

■ 重要設備保全等

- X線機器の2F移設（CT、X線透視、薬局等）
- 地下水システム 嵩上げ1.5 M
- エレベーター保全 防水ドア・排水ポンプ
- 酸素室保全：止水板：排水ポンプ
- 屋上クレーン設置：物資搬入
- 1Fから移動する機器リストの詳細化

避難訓練の継続



地下水濾過システム



2F移設 CT等



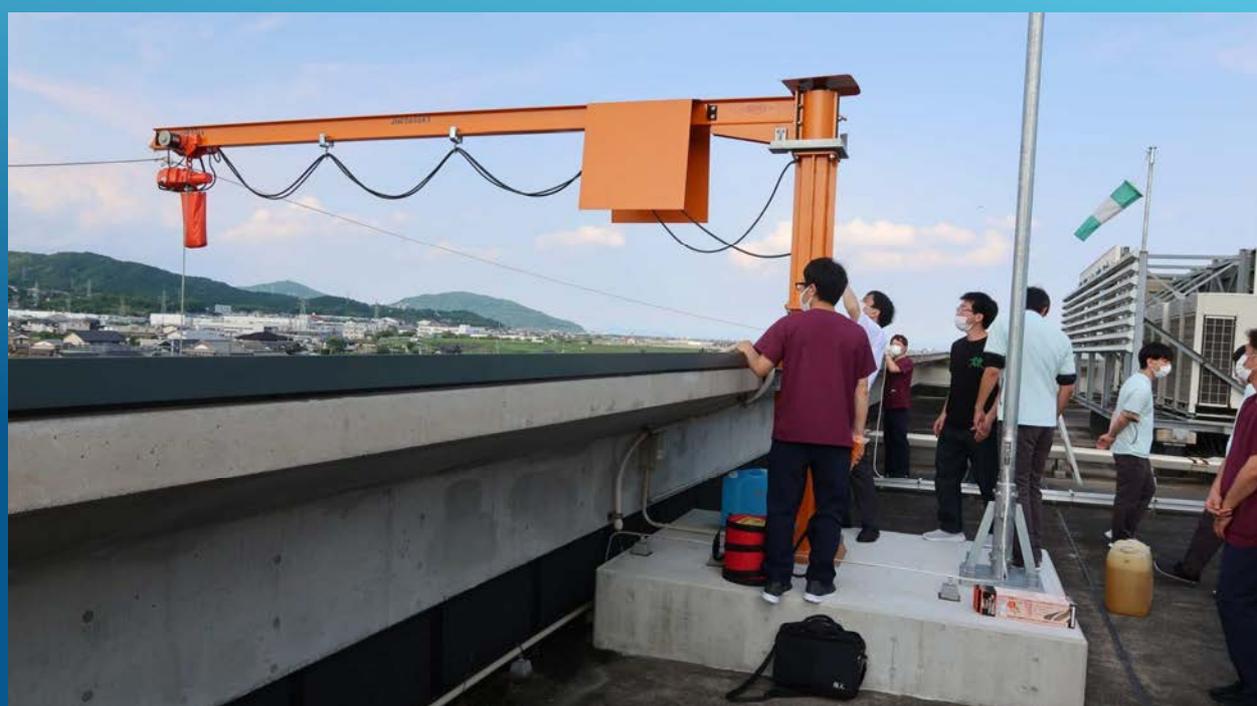
止水板 エレベータ等



酸素設備



屋上クレーン



多くの方々に助けていただきました。
救援いただきました皆様に感謝いたします。



令和6年度福岡県自主防災組織・女性防火クラブ等リーダー研修会
【応用編】 講義資料

被災地支援者講演 「令和5年7月豪雨の活動報告」

久留米大学 法学部 国際政治学科 教授
くるめ災害支援ネット「ハッシュ#」 代表
松田 光司 氏

令和5年7月豪雨の活動報告

くるめ災害支援ネット ハッシュ#
会長 松田 光司

自己紹介

松田 光司 (まつだ こうじ)

- 久留米大学法学部の教授
- 久留米市ボランティア連絡協議会の理事
- **くるめ災害支援ネット「ハッシュ」の会長**
- 災害支援ふくおか広域ネットワーク (Fネット) の幹事
- 久留米大学災害ボランティアネットワーク「ゆめくる」の顧問
- 「本業+α」×「そなえるくるめ」の副代表
- **久留米市西国分校区自主防災組織**
- **防災士・地域防災リーダー**



団体名「ハッシュ#」

- ・ SNSで使われるハッシュタグをイメージ。ハッシュタグをクリックするように、当団体を通して、同じ目的や関心領域で繋がって、災害支援ができればと思って命名。
- ・ 久留米緋の井桁模様
- ・ 周りに人が集まる井戸のように人の気持ちをつなげる支援を!



くるめ災害支援ネット「ハッシュ#」

作成者: 福々亭 金太郎 ● 9月5日 ●

9月4日

本日は螢火さん、Campさんと共に家屋の復旧した。

清掃、消毒、そしてサーキュレーターによる乾
#ハッシュ #災害ボランティア



3

背景

- ・ 久留米市は、複数年続けて被災
- ・ 災害が発生した時に迅速かつ的確な支援活動
- ・ 周辺地域も被災している時は久留米だけでもなんとかしなければならない

4

目的

- ・ 非常時：被災地において、被災者ニーズに基づく様々な支援活動を行う。特に家屋浸水対応
- ・ 平常時常：災害に備えて、市民に対する研修会や災害支援活動を行う人材育成などの活動を実施する
- ・ 久留米市における防災力・災害対応力の向上に努める

5

令和4年豪雨災害

6

合同災害ボランティア

- ・小規模ですが、平成24年の豪雨で被害があった同じ家屋が被災
- ・久留米市の社会福祉協議会とFネットの会員のハッシュというきは市の「萤火」、朝倉市の「Camp」、八女市の「がんばりよるよ星野村」などと一緒に対応

7



西国分校区自主防災
組織から土嚢の提供

8

その次のネットワーク活用

- ・ 災害が起こった地域の土嚢をかき集めたが、足りない。
- ・ 災害が起こっていない西国分校区自主防災組織が作成or備蓄した土嚢を移動させた。
- ・ 毎年訓練で作った土嚢が役にたった。

9

自主防災組織が閉じたネットワークへ

- ・ 少子高齢化に伴い、自主防災組織の担い手が少なくなり、同じメンバーが長年担当して下さっている状況。
- ・ 地元に強固なネットワークをもっているが、新しい繋がりが生まれにくい。
- ・ 久留米市は、校区の推薦で自主防災組織に取り込まれる仕組みになっている。
- ・ **市民団体が推薦し、久留米市役所から校区の枠に入れ込む新制度**

10

令和5年

||

令和5年3月
床下浸水対策講習会¹²



平常時の繋がり

- ・ **ハッシュ**主催の校区向けの研修にFネット幹事団体（**Camp、螢火**）を招待
- ・ 久留米市でリノベーション設計施工、DIYワークショップの企画・運営、空き家対策や移住定住支援などを行っているH&A brothersを招待
- ・ 校区の振興会会長、自治会長や被災する可能性がある住民の直接繋がる。
- ・ 事前復興の準備

13

令和5年7月10日豪雨災害

14

7月11日
情報共有・調整
久留米市社会福祉協議会
15



7月12日
ニーズ調査



16

7月12日
ニーズ調査

17

床下の状態確認

18

活動の中で良かったこと、問題、今後の課題

- **良かったこと**: 平常時から繋がっている地域だったので、予備調査を自治会長が実施していて、自治会長と一緒にニーズ調査+現地調査(畳、床板剥がし)がき迅速かつきめ細かくにできた。
コミュニティーマッチング方式
- **問題**: 災害ボランティアセンター(以後「災ボラ」と表記)の職員と一緒に行く予定が行けなかった。ハッシュ案件が多くなり、難しい所を優先する為に災害ボランティアセンターに依頼を振っても「うちはハッシュでなければダメだ」と断れることになった。
- **課題**: 最初の調査は、できるだけ「災ボラ」の職員と一緒に。一緒にいけない場合は、「ハッシュ」と名乗らないで「災ボラ」を名乗る。調査した者ではなく「災ボラ」のボランティアさんが来ることを説明する。

19



道が川に
復旧が進まない現場 20

敷地内土砂撤去の
格差

21



敷地内土砂撤去の
格差

22



課題：敷地内の土砂撤去許可の仕組み

- ・ 行政から道路の土砂撤去の依頼を受けた業者もできれば協力したい業者が多数あり
- ・ その場に被災者いれば、協力したし、しやすい。
- ・ 避難していたり、外出していたりした被災者の敷地に土砂が残る
- ・ 被災者からの提言：敷地内土砂撤去の旗やシールなどの設置
- ・ ご近所さんが代わりに指示する
- ・ このような仕組みを地域で話し合い、実現したい

23



家を汚さないだけでな
く活動しやすくする
養生
24

地域住民との
非公式な活動
7月15日

25



点検口から床下へ

26



床下の土砂撤去

27

土砂撤去

28

サーキュレーターを設置して乾燥

29



少しでも地元で進める

- ・被災者は、心のダメージも受けているので、無理しないで、周りに協力してもらいながら少しでも早く、少しでも家が傷まない為に
- ・被災地域あるいは周辺に住んでいる方が下記の対応ができるようになる。
 - ・災害対応の為の道具をそろえる、畳と床板を剥がす、濡れた畳を壁に立てかけておく、床下点検、養生、ポンプを借りて水抜き、手が届く範囲だけでも土砂出し、扇風機で風を当てて乾燥
- ・各地域でできることを増やしたい

30

行政+民間から借りる仕組み

- ・ 行政やコミュニティーセンターから様々な物が借りれるが、民間でも貸し借りをしている。
- ・ 農業用ポンプなども貸し借りしている。
- ・ より迅速に貸し借りできるようにする。
- ・ この貸し借りも各地域で出来るようにしたい。

地域の仮置き場 災害ゴミと土砂

33

民館で昼休憩

34

そなえ： 事前復興

- ・ 災害ボランティアセンターから派遣されたボランティア以外の地元の支援活動
- ・ 地域の仮置き場を決めておけると災害ゴミ出しや土砂出しが素早く手配できる
- ・ 情報収集・伝達の仕組み
- ・ 関係者の駐車場の取り決め
- ・ 関係者の休憩場所の取り決め
- ・ 民間も含めた貸し借りの仕組み
- ・ この事前復興も各地域で議論し、事前に出来るだけ決めておく体制

35

団体とのコーディネート

36

#

災害ボランティアセンター ターで調整 床下対応 福岡県防災士会

37



企業からの多人数参加者38 との合同ボランティア

企業の強みを生かした連携 公共施設

39

#

大橋小学校のプール
ポンプ、冷熱機械を
開発している
荏原製作所

40



#

田主丸図書館のカビ

41



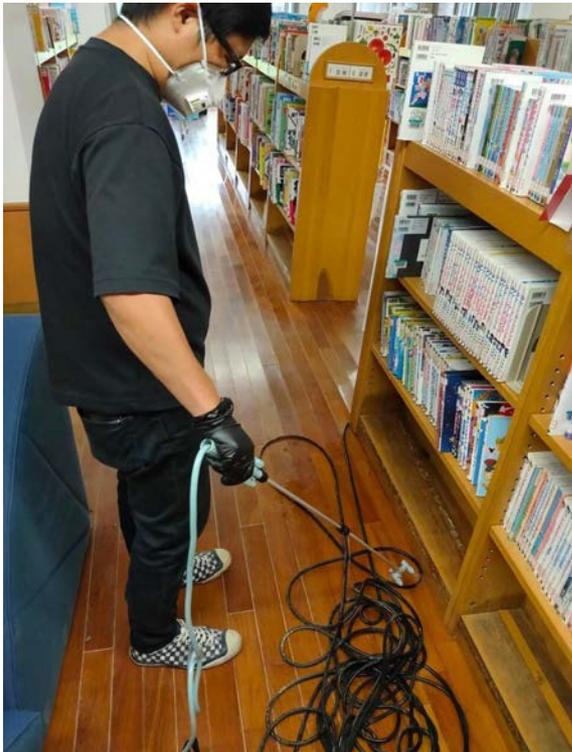
田主丸図書館 ポンプの貸出と設置 荏原製作所

42



田主丸図書館
森永乳業の殺菌料

43



田主丸図書館
除湿器設置
荏原製作所

44

企業の協力

- ・役に立ちたいと思っている企業は沢山ある。
- ・災害ボランティアセンターと連携した枠組みだけでなくその枠組みを越えた活動。
- ・外部支援を調整

45

企業の協力

- ・役に立ちたいと思っている企業は沢山ある
- ・実際に動いて下さった企業：ダイハツ、トヨタ、森永乳業、福岡銀行など
- ・災害ボランティアセンターの枠組みを越えた活動：鍮水建設、荏原製作所、耳納建設
- ・外部支援を引き出す力が必要
- ・各地域と外部支援の仕組みが必要

46

応急修理制度の活用
2月15日・16日
47



災害がきっかけで
介護が必要に



48

業者や専門家の協力

- ・ 自宅にもどる為に応急修理制度を活用して、業者に見てもらいながら、家を修理した
- ・ 戻った自宅で生活する為に福祉や医療専門家に相談をした
- ・ 介護認定を受けるかどうかの判断をしてもらった
- ・ 行政書士に災害関連の公文書を作成してもらうことができる
- ・ 各地域で事前に制度の勉強をし、支援が必要な被災者をサポートで体制が必要。

49

災害ボランティア以外の ボランティア団体との連携

50

農業ボランティア

51

農業ボランティア

52

老人クラブから
手縫いの雑巾

53



ボランティア連絡協議会
の冷たいタオル

54

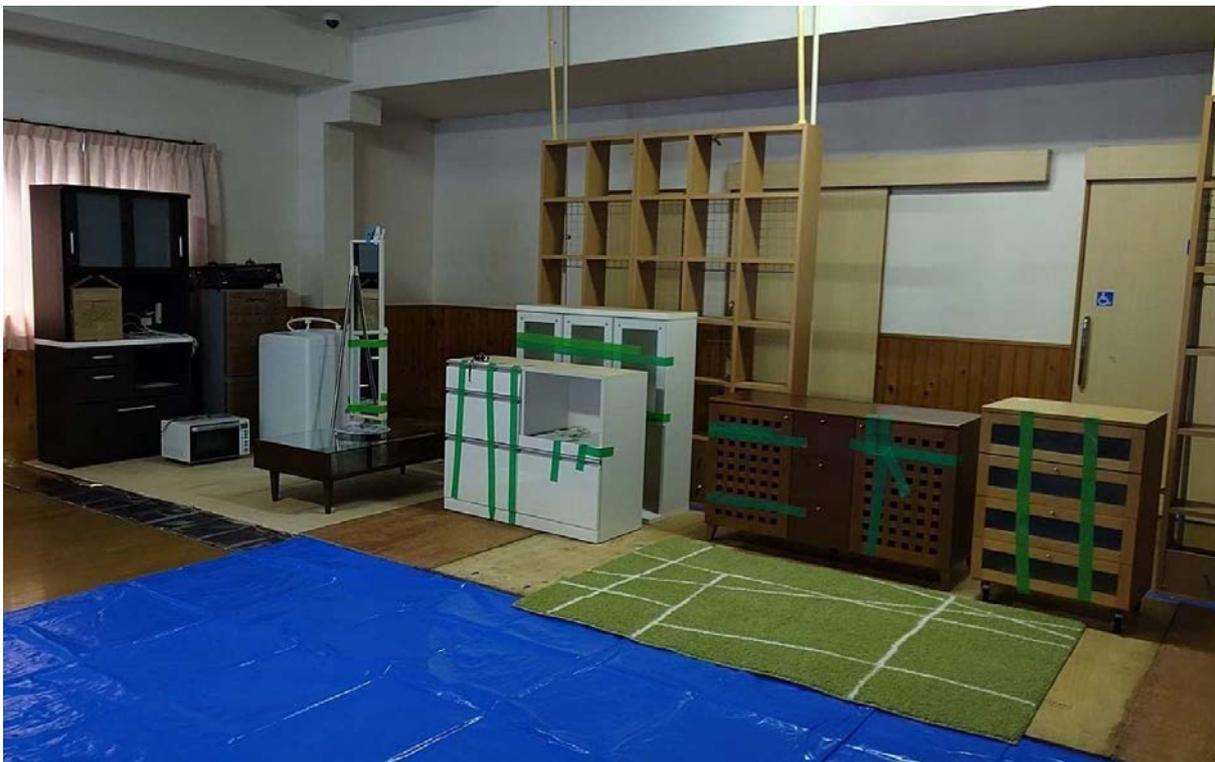


ドローンで山の状態を
確認
築後を守るドローン隊⁵⁵



家電・家具等支援
ハツシユ⁵⁶





災害ボランティア以外のボランティア

- ・ 災害のボランティア≠体力自慢の人だけ
- ・ 平常時のボランティア活動が非常時の支援につながる
- ・ 大規模災害になると、家屋の復旧だけでなく、生活再建が同時進行になる
- ・ **他のボランティア団体との活動調整の場が実現＝久留米連携会議・久留米市地域防災会議**
- ・ **こちらから現場に行って、活動のお手伝いをしないと繋がれない**
- ・ **より一層の連携が必要**

その後のフォローアップ

59

令和6年6月2日
地元コミュニティ
センターと連携

60



令和6年6月2日
同じ現場で
フロローアップ

61



災害支援ふくおか広域ネットワーク Fネット 入会申し込み

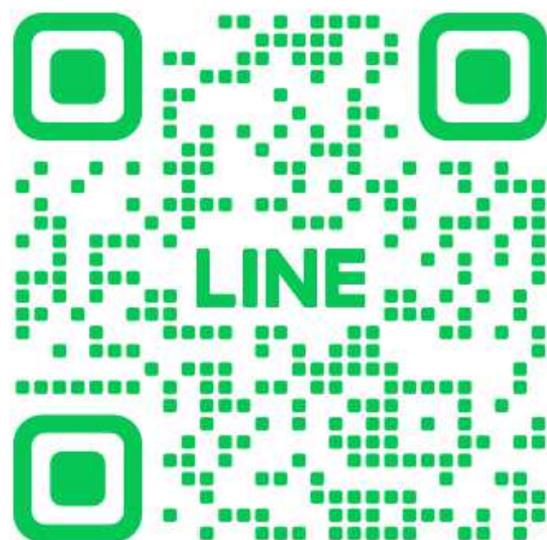
- **福岡県内の団体の連携**
- 年会費 5千円
- 申し込みフォーム
<https://saigaishienfnet.wordpress.com/#nyukai>
でお申し込みいただき、当ネットワークの幹事会で承認され次第、お振込先をご案内いたします。
- ご入金の確認をもちまして入会完了となります。



62

ハッシュのサポート会員募集

- ・ 主に久留米とその周辺の自治体で活動の連携
- ・ 左のハッシュ公式LINEに登録
- ・ サポート会員は、会費無料
- ・ イベントやボランティアの案内が届きます。



63



64

令和6年度福岡県自主防災組織・女性防火クラブ等リーダー研修会
【応用編】 講義資料

専門家講演

「避難所の課題と対策」

国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 災害医療分野 教授
国際医療福祉大学 災害保健医療研究センター 副センター長
石井 美恵子 氏



避難所の課題と対策

国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 災害医療分野 教授
国際医療福祉大学 災害保健医療研究センター副センター長

日本災害医学会理事/避難所・避難生活学会理事
外務省女性参画推進室女性・平和・安全保障に関する行動計画評価委員
東京都防災会議委員

石井 美恵子

概 要

- 日本の避難所の課題
- 健康被害の最小化を目指した避難所環境を考える
- 避難所環境と人権意識

福祉避難所という概念が登場した背景

- 1995年阪神淡路大震災

CWAP ; children, women, aged people, patients/poorの概念が注目

- 2004年中越地震、2007年能登半島地震、2007年中越沖地震

高齢化に伴いCWAPの中で特に高齢者への配慮の必要性が認識された

大川弥生 (2005), 岡田直人ら(2006), 中橋毅 (2008)

- 災害による犠牲者のうち65歳以上の高齢者が占める割合

- ・ 2004年中越地震66.2% (死者51人)

国土交通省第1章 新潟県中越地震の概要 第2節/一般被害 | 一般被害発生状況と特徴

- ・ 2006年豪雪65.1% (死者151人)

内閣府 平成18年版防災白書3-8 平成18年豪雪

- ・ 2007年中越沖地震73.3% (死者15人)

内閣府 平成19年(2007年)新潟県中越沖地震について

3

国際基準からみる 日本の避難所環境の課題



東日本大震災での震災関連死

- 東日本大震災での震災関連死死者数（平成24年3月31日時点）
1 都9県で1,632人（福島県761人, 宮城県636人, 岩手県193人）
- 死亡時年齢別では66歳以上が9割
- 死亡時期別では発災から1か月以内が5割
- 全体の原因区別別（複数選択）
 - ① 避難所等における生活の肉体・精神的疲労が約3割
 - ② 避難所等への移動中の肉体・精神的疲労が約2割
 - ③ 病院の機能停止による初期治療の遅れ等が約2割

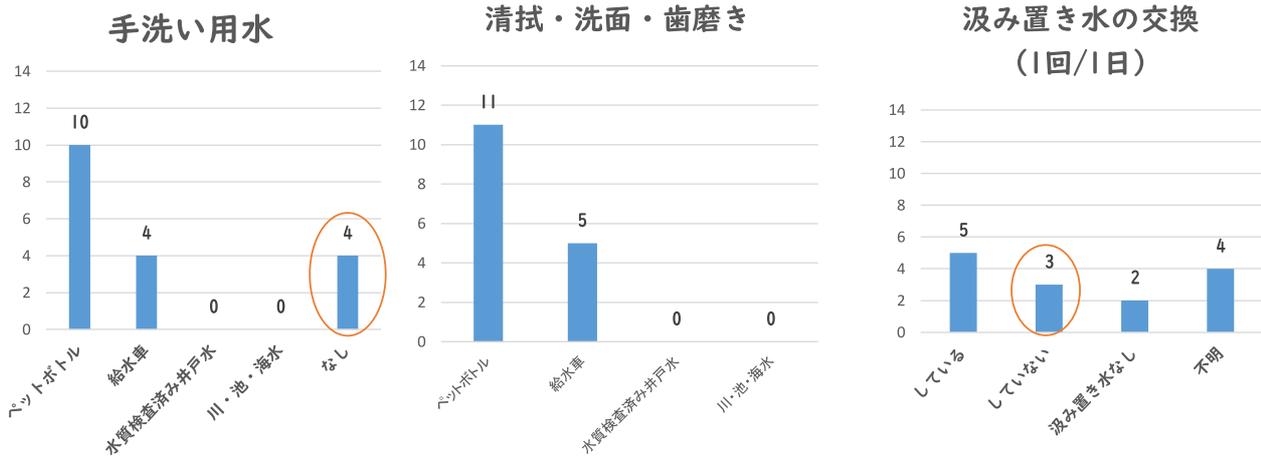
復興庁：東日本大震災における震災関連死に関する報告. 平成24(2012) 年8月21日

2011年4月11日 衛生管理アセスメントを実施

- 対象：宮城県石巻市11避難所、気仙沼市3避難所 計14避難所
- 14避難所の避難者総数5,232人（最小53人, 最大1,100人）
- 乳幼児・小児の総数199人（最小0人, 最大37人）
- 何らかの医療ニーズ*がある人の総数 380人（最小0人, 最大90人）
*急性下痢症, 急性呼吸器感染症, 気管支喘息, 慢性疾患, 創傷, 心理反応 等）
- 要介護者総数36人（最小0人, 最大8人）そのうち床ずれのある要介護者6人
- 精神疾患, 心理反応, 認知症のある避難者総数 44人
- 感染症*を有する避難者総数 55人
*インフルエンザ, ノロウイルス感染症, ロタウイルス感染症
- 救急搬送 2件（COPD, 心不全）

結果・考察 衛生管理アセスメント<水質管理> 調査日：2011年4月11日

対象：ライフラインが復旧していない宮城県石巻市11避難所、気仙沼市3避難所 計14避難所



スフィア・ハンドブックの基本指標
【水関連施設の最大使用者数】
蛇口1つにつき250人
基準流出量：毎分7.5リットル

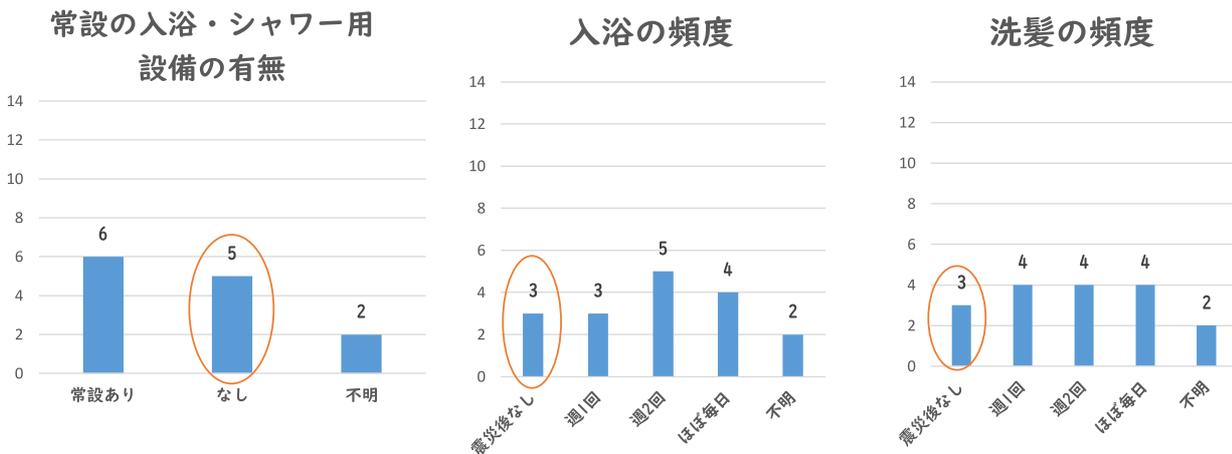


スフィア・ハンドブックの基本指標
【衛生上の行動】
(社会的および文化的規範による)
量 2~6リットル/人/日

蛇口（水道もしくは代替システム）のない避難所 14か所

結果・考察 衛生管理アセスメント<生活水> 調査日：2011年4月11日

対象：ライフラインが復旧していない宮城県石巻市11避難所、気仙沼市3避難所 計14避難所

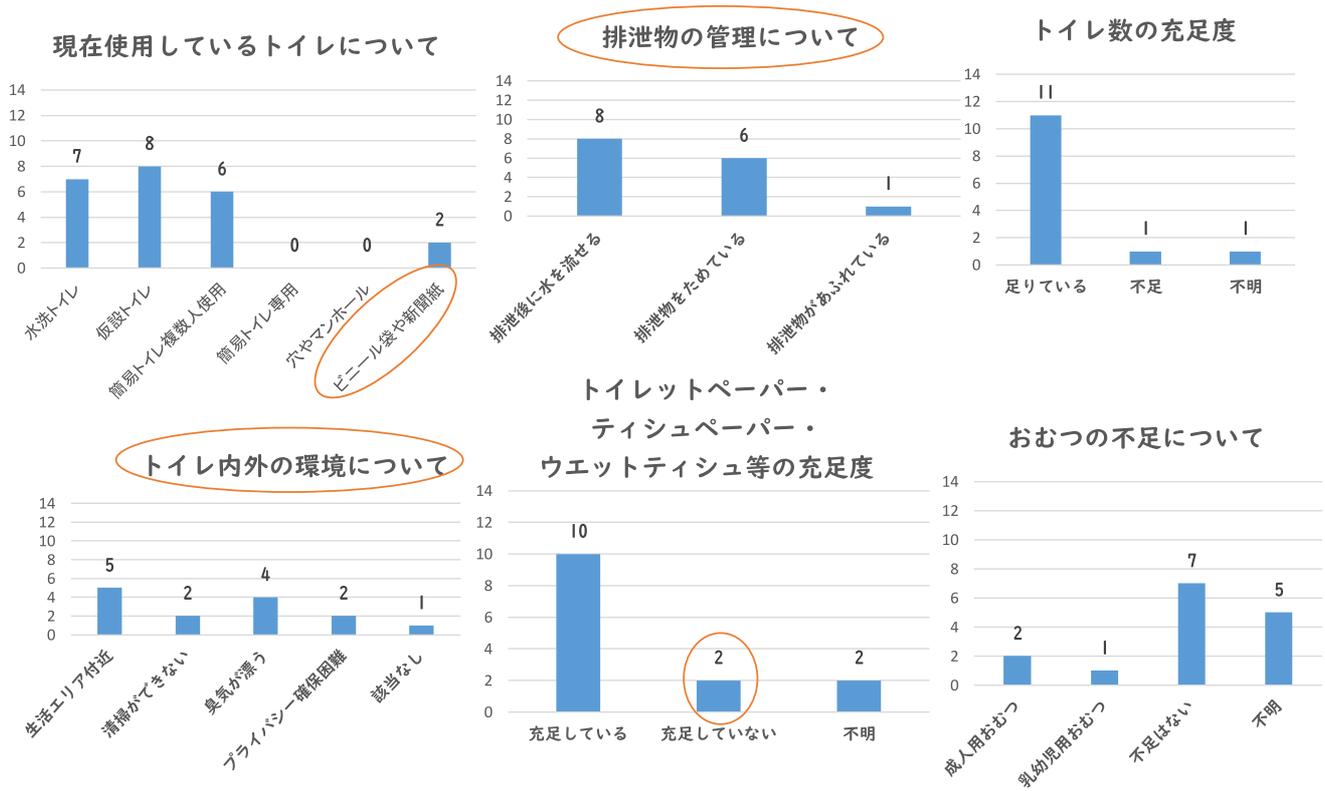


スフィア・ハンドブックの基本指標
【水関連施設の最大使用者数】
入浴施設 1か所につき50人

震災から1か月が経過しても入浴・洗髪ができなかった避難所が3か所

結果 衛生管理アセスメント＜排泄管理＞ 調査日：2011年4月11日

対象：ライフラインが復旧していない宮城県石巻市11避難所、気仙沼市3避難所 計14避難所
 ＊水洗トイレは機能しておらずおむつや貯水で流すなどして使用



衛生管理アセスメント＜排泄管理＞

自由記述データ

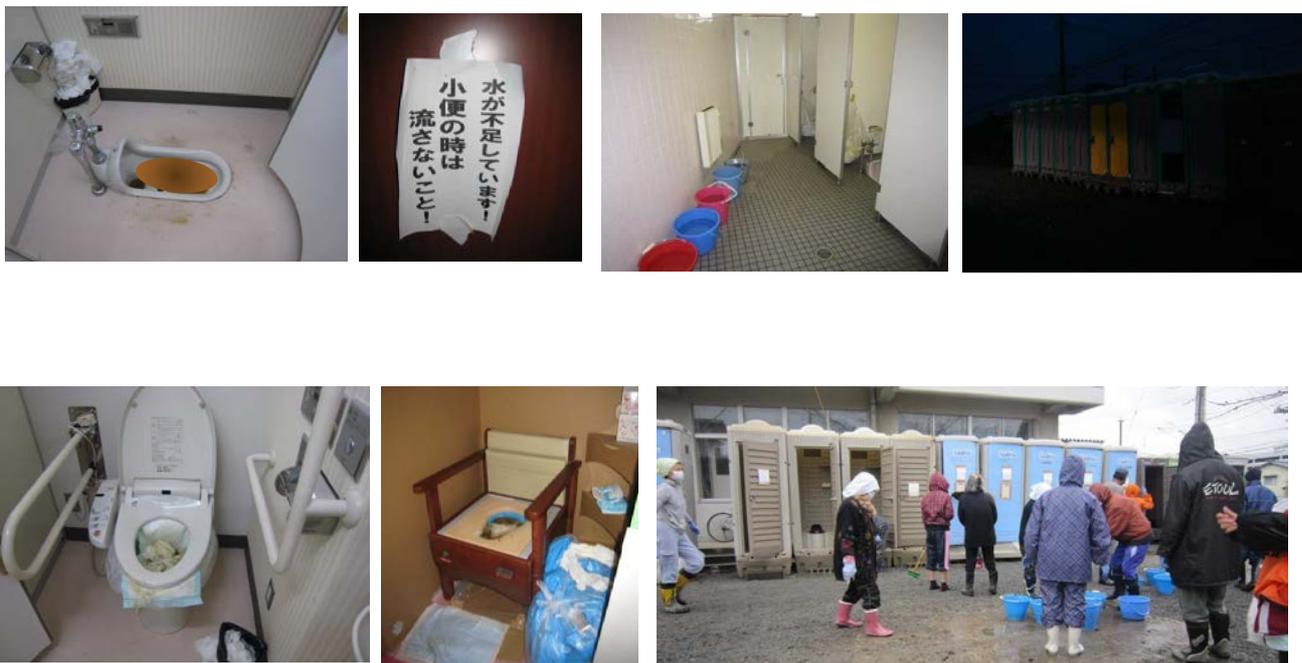
- ・ 仮設トイレに下肢が不自由な人で行けない人はダンボールポータブルを作成、ナイロン袋に尿とりパットを敷き吸収させて汚物捨てへ入れている。
- ・ 体育館トイレと仮設トイレのみで体育館は水は出ず便は新聞紙に包んで捨てる
- ・ 下痢便を新聞紙に包んで処理をする人が増え、便が巻き散らかされている。
- ・ 仮設トイレは便がこびりつき外へ落ちている。汲みとりも依頼するがあふれそうな状況。仮設トイレを掃除するが汚れやにおい強くハエがたかる。
- ・ 体育館の後ろにテントを張りポータブルトイレを設置。トイレ内はペット用の砂を入れ排泄後はナイロン袋に入れて捨てる。

スフィア・ハンドブック基本指標

- ・ 人々が生活、学習や仕事をする場に人間の排泄物が存在しない
- ・ すべての人間の排泄物が、公衆衛生上または環境に負荷がかからない方法で廃棄されている

スフィア基本指標を満たす
 トイレがあった避難所は
0か所

3.11 被災地のトイレの実際



繰り返される地域保健福祉の課題

内閣府阪神・淡路大震災教訓情報資料集より

http://www.bousai.go.jp/linfo/kyoukun/hanshin_awaji/download/index.html

- 高齢者の震災後関連疾患が多かった
- 要因は、環境要因、慢性疾患の治療中断、避難生活の長期化による二次的・内科的疾患の増加
- 避難所生活は、高齢者が体を動かすのに適した場所ではなく、生活不活発病や寝たきりとなるリスクがある
- 避難所で配布される食事は、高齢者にとって咀嚼・嚥下が困難な形態であった

- エネルギー・ビタミン摂取不足：約90%
- たんぱく質不足：約80%
- 一日平均エネルギー摂取量：1546Kcal
- 避難者500名以上の避難所の半数：1日2食（1340Kcal）

<宮城県内332ヶ所の避難所調査結果（発災1か月後）UNICEFの調査より>

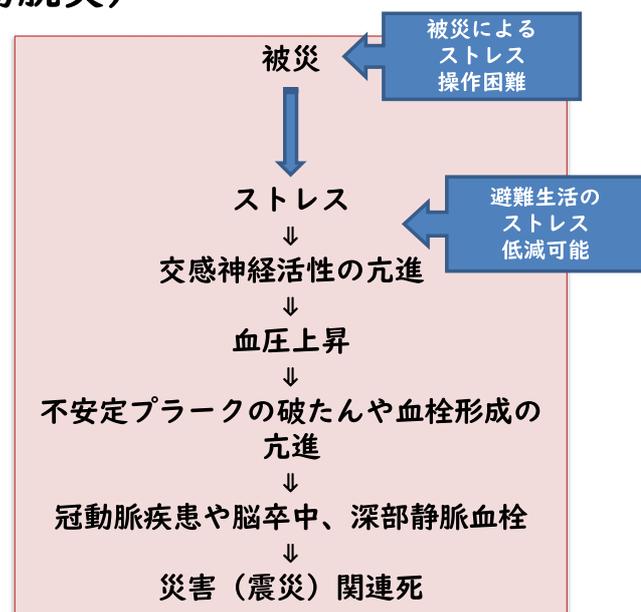
2011年5月5日
避難所の朝食



健康被害の最小化を目指した 避難所環境を考える

避難生活により生じる主な健康問題

- 感染症（呼吸器・胃腸炎・膀胱炎）
- 慢性疾患の悪化
（糖尿病、腎不全 等）
- 深部静脈血栓
（エコノミークラス症候群）
- 生活不活発病
- 熱中症（夏季）
- 偶発性低体温（冬季）
- 便秘
- 心理的ストレス



（出典：厚労省）

西澤匡史, 星出 聡, 菊尾七臣：災害と高血圧・脳卒中, 心臓 46(5), 2014)

避難所における良好な生活環境の確保に向けた取組指針

平成25年8月 内閣府（防災担当）

（2）避難所の機能

⑦ 災対法86条の6に基づき、被災者の避難所における生活環境の整備に必要な措置を講ずるため、優先順位を考慮して、必要に応じ、次の設備や備品を整備しながら、被災者に対する男女別のトイレ・更衣室・洗濯干し場や授乳室の設置等によるプライバシーの確保、暑さ寒さ対策、入浴及び洗濯の機会確保の他、子どもの遊びや学習のためのスペースの確保等、生活環境の改善対策を講じること。

- ア 畳、マット、カーペット、簡易ベッド
- イ 間仕切り用パーティション
- ウ 冷暖房機器
- エ 洗濯機・乾燥機、洗濯干し場
- オ 仮設風呂・シャワー
- カ テレビ・ラジオ
- キ 簡易台所、調理用品
- ク その他必要な設備・備品



<http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/h25/pdf/kankyokakuho-honbun.pdf>

15

避難所における トイレの確保・管理ガイドライン

平成28年4月 内閣府（防災担当）

3 トイレの個数（目安）

市町村は、過去の災害における仮設トイレの設置状況や、国連等における基準を踏まえ、
 ・災害発生当初は、避難者約50人当たり1基
 ・その後、避難が長期化する場合には、約20人当たり1基
 ・トイレの平均的な使用回数は、1日5回
 を一つの目安として、備蓄や災害時トイレの確保計画を作成することが望ましい。

トイレの個数については、施設のトイレの個室（洋式便器で携帯トイレを使用）と災害用トイレを合わせた数として算出する。
 また、バリアフリートイレは、上記の個数に含めず、避難者の人数やニーズに合わせて確保することが望ましい。
 ただし、これらは目安であり、避難所におけるトイレの個数については、避難者の状況や被害の程度等により必要となる個数が異なる。各避難所では、トイレの待ち時間に留意し、避難者数（男女毎も含む）に見合ったトイレの個数と処理・貯留能力を確保することが重要である。

5 トイレの衛生管理

避難所のトイレは大勢の人が使用するため、普段以上に衛生面の配慮が必要になる。清潔な環境を維持することで、ノロウイルス感染症等、二次被害を抑制することができる。トイレの衛生管理は、被災者の命を守ることに直結するため、水や食料の確保と同様に、避難所開設時から取り組むべきである。

★トイレの衛生管理のポイント

- 誰もが気持ちよくトイレを使うために、女性もリーダーシップを発揮できる避難所運営体制にすること。
- 感染症を予防するために手洗いの確保や手洗いを徹底すること。
- 体育館等の室内のトイレでは、専用の履物を用意すること。
- 便袋を使用する場合は、汚物処理の方法を徹底し、汚物の保管場所を確保すること。
- 便袋の保管は出来る限り、雨水で濡れない場所を選択することが望ましい。
- 感染症患者が出た場合には、専用のトイレを設けることも検討すること。
- 避難者の中から、トイレの責任者と掃除当番を決めること。
- ボランティア等の支援者の力を借りて、衛生的なトイレ環境を維持すること。

項目番号	仕事	いつ				★主担当 ◎担当 ○支援助入 を記入	指示したか	確認したか	協働する団体等
		準備	初動	応急	復旧				
対策項目1 災害用トイレの確保・管理計画を作成する									
1-1	各避難所の仮設トイレの汚水処理方法を確認する	◎				浄化槽・し尿処理、下水道担当、施設管理者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
1-2	各避難所の想定される最大避難者数を確認する	◎				浄化槽・し尿処理、下水道担当、施設管理者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
1-3	災害時の水洗トイレの使用ルールを作成する	◎				浄化槽・し尿処理、下水道担当	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
1-4	災害時のトイレ（便器）の必要数の見積もりを実施する	◎				浄化槽・し尿処理、下水道担当、施設管理者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
1-5	携帯・簡易・仮設トイレの備蓄、マンホールトイレの整備を検討する	◎				浄化槽・し尿処理、下水道、防災担当、施設管理者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
1-6	屋外トイレの設置場所を確認する	◎				防災担当、施設管理者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
1-7	トイレの衛生管理に必要な物資等を確保する	◎				浄化槽・し尿処理、下水道担当、施設管理者、保健担当	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
1-8	手洗い用水を確保する	◎				上水道担当、避難者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
対策項目2 汚水処理・使用済み携帯トイレの処理手段を確保する									
2-1	汲み取り業者等と災害時の協定を実施する	◎				浄化槽・し尿処理、下水道担当	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	汲み取り業者
2-2	避難所の汲み取り計画（回収場所・順序・回数）を作成する	○	◎			浄化槽・し尿処理、衛生担当	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	汲み取り業者
2-3	使用済み携帯トイレの保管場所を確保する	○	◎			施設管理者、衛生担当	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
2-4	使用済み携帯トイレの回収方法、手段を確保する	○	◎			衛生担当	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

男女共同参画の視点からの 防災・復興の取組指針概要

＜基本的な考え方＞

- 1 平常時からの男女共同参画の推進が防災・復興の基盤となる
- 2 「主体的な担い手」として女性を位置づける
- 3 災害から受ける影響の男女の違い等に配慮する
- 4 男女の人権を尊重して安全・安心を確保する
- 5 民間と行政の協働により男女共同参画を推進する
- 6 男女共同参画センターや男女共同参画担当部局の役割を位置づける
- 7 災害時要援護者への対応との連携に留意する

2

<http://www.gender.go.jp/policy/saigai/shishin/pdf/shishin.pdf>

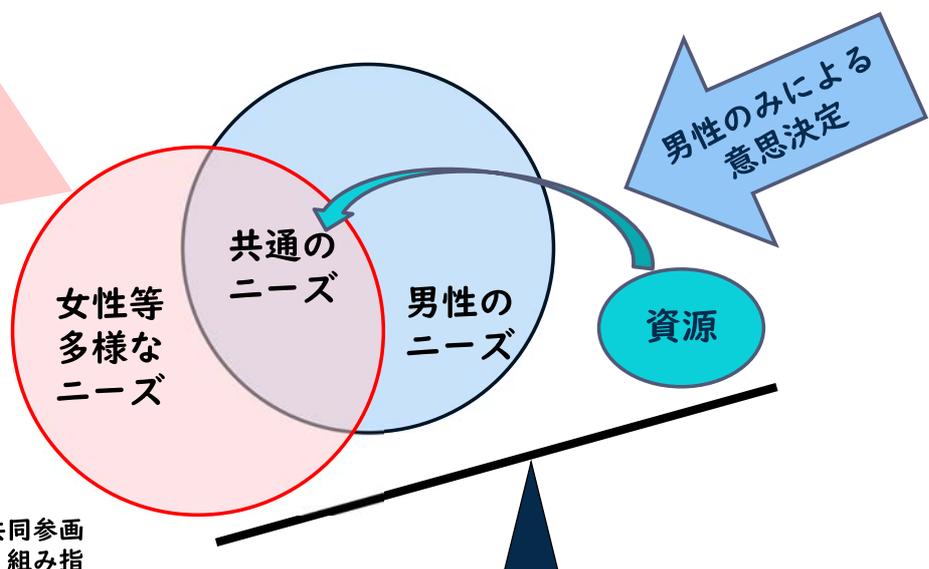
災害時における男女共同参画の必要性

▶ 多様なニーズを満たす

意思決定の場に男性のみでは
多様なニーズに気がつかない可能性がある

例) 女性固有のニーズ

- ・ 更衣室
- ・ 授乳室
- ・ 女性用トイレ
(安全で行きやすい)
- ・ 女性用品
(生理用品・下着)
- ・ 女性専用スペース
- ・ 単身女性や女性のみ
世帯への配慮
- ・ 暴力・犯罪からの予防
- ・ 男女問わずの食事や
清掃などの分担 など

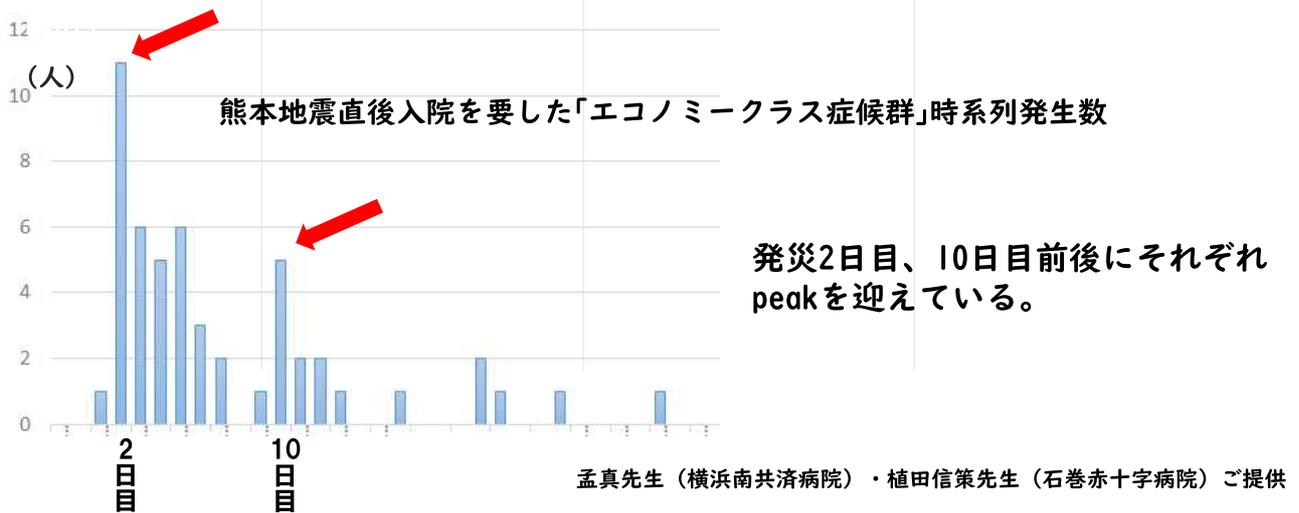


内閣府男女共同参画局「男女共同参画
の視点からの防災・復興の取組み指
針 避難所チェックシート」
平成25年5月 より抜粋

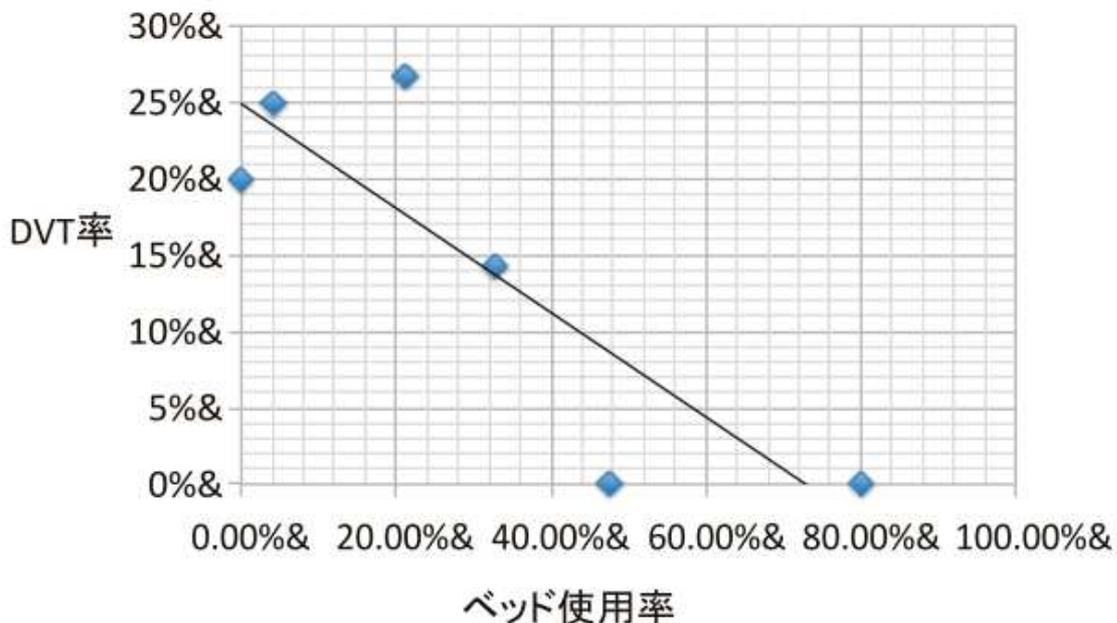
発災初期からの健康問題と災害関連死

	阪神淡路		東日本		熊本	
全災害死者数 (人)	6,402		19,689		270	
直接死	5,483	86%	15,893	81%	55	21%
災害関連死	919	14%	3,789 (2022年3月)	19%	215	79%

内閣府
 平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)について[平成31年3月8日]
 「平成28年熊本県熊本地方を震源とする地震に係る被害状況等について」[平成31年4月12日] 等より



深部静脈血栓症発生率と簡易ベッド使用率 2015年東日本豪雨災害(常総市)



榛沢和彦:災害と関連する血栓性疾患.血栓止血誌.30(1),81-87.2019.

西日本豪雨災害

避難所の市町村格差



S町避難所 (2018. 8.5)
段ボールベッド無し、冷房無し
炊き出しなし



K市の避難所 (2018.8.5)
全員段ボールベッド有り、冷房有り
炊き出し有り

S町避難所からK市避難所まで500mしか離れていなかった

Hanzawa

Miztani

東日本大震災以降の避難所

テント村



トレーラーハウスの
福祉避難所



体育館



段ボールベッド・パーテーション



石川県能登地方地震

2023年5月5日震度6強を観測



ピースウィンズ・ジャパン 稲葉基高氏提供
2023年5月9日撮影

令和6年能登半島地震

• 2024年1月1日16時10分

- ⇒1月1日：正月休み・帰省者存在
- ⇒16時10分：日没(16時48分)が近づいている

被害者・被害状況
の把握が困難

• 能登半島

⇒高齢化率が高い地域(参考：珠洲市65歳以上51.6%, 2020)

出典：石川県 珠洲市 | 地域医療情報システム(日本医師会)(jmap.jp)

• M7.6 (最大震度7)

- ⇒1995年阪神淡路大震災 M7.3
- ⇒2011年東日本大震災 M9
- ⇒2016年熊本地震 M6.5 M7.3

(参考：30年内70%確率とされる首都直下地震はM7.3)

M7.6 震度7

原発は
大丈夫か？

• 大津波警報発令

- ⇒志賀原発の存在
- ⇒被害拡大の可能性
- ⇒警報解除には時間を要する可能性がある

志賀原発



危機管理の鉄則
逃げるな・隠すな・ウソつくな

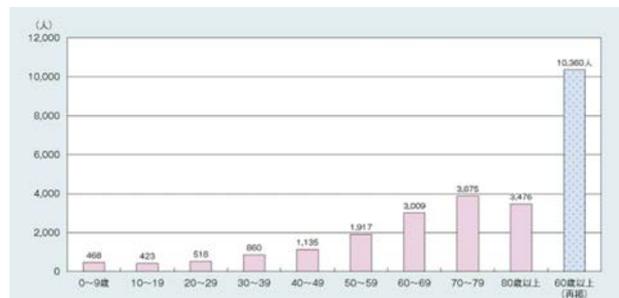


繰り返される避難所の課題
令和6年能登半島地震

災害による要配慮者への影響

【高齢者】

- 東日本大震災における高齢者の直接死
- 60歳以上は全体の66.1%



内閣府:https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2013/zenbun/sl_2_6_07.html

- 熊本地震における高齢者の震災関連死
- 60歳以上は全体の91.4%

	0-9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100歳以上	合計
人数	2	1	0	4	1	9	27	41	70	39	3	197
割合	1.0%	0.5%	0.0%	2.0%	0.5%	4.6%	13.7%	20.8%	35.5%	19.8%	1.5%	

熊本県:<https://www.kumamoto-archive.jp/post/58-99991j10004fg2>

災害による要配慮者への影響

【障がい者】

【宮城県】宮城県主催・障害福祉団体等の意見交換会（平成24年3月29日）配布資料（※）より内閣府作成（宮城県の全人口・障害者数は、公表資料より）

事 項	数 値	備 考
宮城県の全人口	234万6,853人	宮城県の推計（平成23年3月1日）
宮城県の障害者数 （3市町も含む。）	10万7,150人	障害者手帳所持者（平成23年3月31日）、身体80,457人、療育A7,066人、療育B8,822人、精神保健福祉10,805人
宮城県の全死亡者数 （対宮城県の全人口比）	9,471人 <u>(0.4%)</u>	平成24年2月29日現在
宮城県の障害者の死亡者数 （対宮城県の障害者数（3市町を除く。）の比）	1,028人 <u>(1.7%)</u>	平成24年2月29日現在。仙台市、亶理町、大和町は障害者の死亡者数を把握していない。（3市町を除いた宮城県の障害者数は61,724人。）

※http://www.dinf.ne.jp/doc/JDF/20120323_miyagi/index.html
（表中の「3市町」とは、仙台市、亶理町、大和町）

平成24年度障害者白書：https://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/h24hakusho/zenbun/pdf/h1/4_1_clm04.pdf

- ・ 聴覚障害者：情報へのアクセスの課題
- ・ 身体障害者：避難行動や避難所での生活上の困難
- ・ 精神障害者：集団生活による症状の悪化
- ・ 知的障害者：集団生活への適応困難

多様な要配慮者

【妊産婦・乳幼児】

- ・ 産後うつ傾向
一般的な頻度は10%程度
2011～2012年度は福島県では26%（相双地区に限ると30%）
- ・ 乳幼児は不安や恐怖を言葉で上手く表現できないため、精神的な反応が生理面で表れる傾向がある

2. 災害の妊産婦への心身の影響 - 日本産婦人科医会 (jaog.or.jp)

【その他の特に配慮を要する者】

- ・ 人工呼吸器使用者や人工透析患者など医療ニーズが高い人
停電による影響
慢性透析患者の広域搬送
- ・ 外国人
情報不足やコミュニケーションの課題

熊本地震での福祉避難所

◎ 認知項目の原則

コミュニケーションの状況（理解と表出）、社会認識（社会的交流、問題解決、記憶）について各項目7点満点で評価します。

採点の基準

点数	介助者	手助け	手助けの程度
7	不要	不要	自立
6	不要	不要	時間がかかる、投棄している、安全性の配慮が必要
5	必要	必要	監視・準備・指示・促しが必要、介助は10%未満
4	必要	必要	75%以上 90%未満自分で行う
3	必要	必要	50%以上 75%未満自分で行う
2	必要	必要	25%以上 50%未満自分で行う
1	必要	必要	25%未満しか自分で行わない

*運動項目との違い

5点：監視、指示、準備以外に10%未満の手助けも含まれます。

採点のポイント（理解・表出・問題解決）

7・6点：複雑/抽象的事項を一人でできる

5～1点：簡単な日常生活において介助が必要

採点のポイント（社会的交流・記憶）

7・6点：一人でこなせる

5～1点：手助けを必要とする

複雑、簡単（日常的）の区別がないことに注目

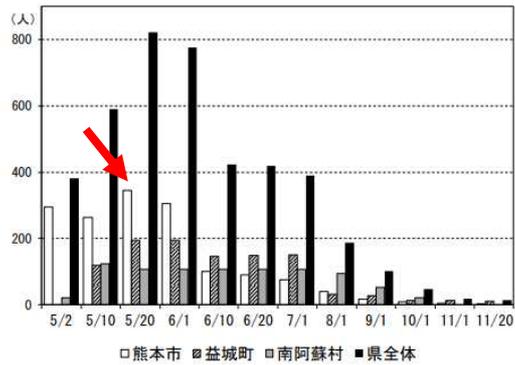


図-2 福祉避難所の避難者数 (熊本県資料から作成)

熊本市の計画では176施設で約1700人を受入れ予定であった

- ・ 職員の被災による人手不足
- ・ 建物被害
- ・ 周知不足
- ・ 遠くて行けなかった、行くつもりはなかった

金井純子, 中野晋:熊本地震での福祉避難所の実態調査. 土木学会論文集, 74(2), 131-136, 2018.

熊本地震での福祉避難所の様子



益城町提供



益城町提供



写真-1 特別養護老人ホーム A の福祉避難所の様子

(写真：施設提供)

金井純子, 中野晋:熊本地震での福祉避難所の実態調査. 土木学会論文集, 74(2), 131-136, 2018.

多様な要配慮者のニーズに対応した 個別避難計画を策定できそうですか？

介護度別の
指定福祉避難所

妊産婦・乳幼児
を対象とした
指定福祉避難所

認知症の方を
対象とした
指定福祉避難所

精神障害の方を
対象とした
指定福祉避難所

外国人の方を
対象とした
指定福祉避難所

身体障害の方を
対象とした
指定福祉避難所

避難者数/避難者数予測の比較

	避難者数/避難者数予測
1995年阪神淡路大震災	ピーク時:31万6678人(1月23日1153の施設)
2011年東日本大震災	ピーク時:約47万人(3月14日)
2016年熊本地震	ピーク時:18万3882人(4月17日855の施設)
2023年石川県能登地方を震源とする地震	【珠洲市】避難所数:13、避難者数:81人 (5月6日(土)11時00分現在)
南海トラフ地震	約210万人~430万人
首都直下地震	ピーク時:約299万3713人(4日~1週間)

関西広域連合広域消防局:https://www.kouiki-kansai.jp/material/files/group/4/20230506_nihou.pdf

神戸新聞:データで見る阪神淡路大震災.<https://www.kobe-np.co.jp/rentoku/sinsai/graph/sp/p2.shtml>

川崎茂:<https://www.stat.go.jp/training/2kenkyu/pdf/symp.pdf>

内閣府:310412_1800_熊本県熊本地方を震源とする地震に係る被害状況等について【第54報】(bousai.go.jp)

内閣府:南海トラフ地震対策:防災情報のページ - 内閣府(bousai.go.jp)

東京都:首都直下地震等による東京の被害想定.報告書000n.pdf(tokyo.lg.jp)

保健医療福祉調整本部へ

大規模災害時の保健医療福祉活動に係る体制の整備について

科発 0722 第 2 号
医政発 0722 第 1 号
衛生発 0722 第 1 号
社福発 0722 第 1 号
老発 0722 第 1 号
令和 4 年 7 月 22 日

厚生労働省 大臣官庁厚生科学課長
医 政 局 長
障 害 局 長
医 薬・生活衛生局長
社 会・福祉局長
老 年 局 長
(各 印 室 長)

1. 保健医療福祉調整本部の設置等について

(1) 設置

被災都道府県は、当該都道府県に係る大規模災害が発生した場合には、速やかに、都道府県災害対策本部の下に、その災害対策に係る保健医療福祉活動（以下単に「保健医療福祉活動」という。）の総合調整を行うための本部（以下「保健医療福祉調整本部」という。）を設置すること。なお、当該保健医療福祉調整本部の設置については、当該保健医療福祉調整本部の設置に代えて、既存の組織等に当該保健医療福祉調整本部の機能を持たせても差し支えないこと。

被災都道府県における保健衛生活動を行う災害時健康危機管理支援チーム（以下「DHEAT」という。）・保健師チーム等の派遣調整については各都道府県の担当課が行ってきたところであるが、保健医療福祉調整本部において、保健医療活動チームの派遣調整、保健医療福祉活動に関する情報連携、保健医療福祉活動に係る情報の整理及び分析等の保健医療福祉活動の総合調整を行うこと。

2024年（令和6年）能登半島地震

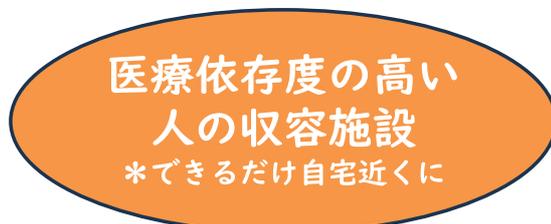
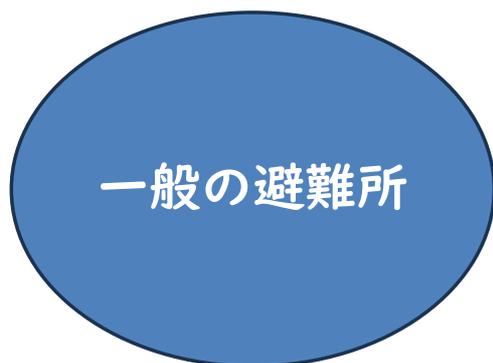
- ・ 主要な医療機関は4施設
- ・ 社会福祉施設は約100施設

2024年（令和6年）能登半島地震

- ・ 1.5次避難所での転倒事例（ほぼ、連日発生）

イタリアの要配慮者対応

- ・ 個別避難計画ではなく各ニーズを集団として把握
例) 要介護者ニーズの把握 ○○人
全員を収容可能な場所・人・ものを想定し準備する



イタリアの避難所

自治体に対する罰則規定のある法律の存在
スローガン：被災者（避難者）を幸せにする



*大型テント(冷暖房完備)
 *小型テント(プライベート空間)



2022年最新の世界GDPランキング

順位	国名	単位(百万US\$)
1位	アメリカ合衆国	25,346,805
2位	中国	19,911,593
3位	日本	4,912,147
4位	ドイツ	4,256,540
5位	インド	3,534,743
6位	イギリス	3,376,003
7位	フランス	2,936,702
8位	カナダ	2,221,218
9位	イタリア	2,058,330
10位	ブラジル	1,833,274

<https://elemenist.com/article/2110>



Avezzano(アヴェッツァーノ)の備蓄倉庫

*イタリア共和国アブルッツォ州ラクイラ県
 人口約4万2000人の基礎自治体(コムーネ)



【提案】 実現実行性を踏まえる

- ①指定避難所を福祉的環境にする
- ②さらなる配慮が必要な人は二次避難

*指定避難所に
非常電源を



プライバシー確保用テント



福祉的な配慮がなされた
トイレカー



室内用には
ラップ式トイレ



水循環型
手洗い装置



簡易的な
手すりの設置



簡易ベッドと
適正なサイズの寝具
*冬季は寝袋



キッチンカー
*災害救助法の適用
に関する課題



水循環型シャワー

避難所環境と人権意識

災害対策基本法

第一条

この法律は、**国土並びに国民の生命、身体及び財産**を災害から保護するため、防災に関し、**基本理念**を定め、国、地方公共団体及びその他の公共機関を通じて必要な体制を確立し、責任の所在を明確にするとともに、防災計画の作成、災害予防、災害応急対策、災害復旧及び防災に関する財政金融措置その他必要な災害対策の基本を定めることにより、総合的かつ計画的な防災行政の整備及び推進を図り、もつて**社会の秩序の維持と公共の福祉の確保**に資することを目的とする。

イタリア市民保護局 「哲学なき災害支援は成功しない」

市民保護局が生まれた背景

- ・ 1980年代の2つのイベント
 - * イルピニア地震(2000人以上の死者)
 - * ベルミチーノで井戸に転落した子供一人が亡くなる
→ 1人も犠牲にしないというポリシーへ
- ・ いずれもレスキューができなかった課題はコーディネーション
- ・ 1982年首相の命令で、市民保護局が生まれ首相直下に位置づけた
アイデアは内務省から、時々、いい政治家もいる
- ・ 何か起きてから対処ではなく、検証と事前対策(平時の活動)へ

石井美恵子(2024):イタリア市民保護局での視察調査から

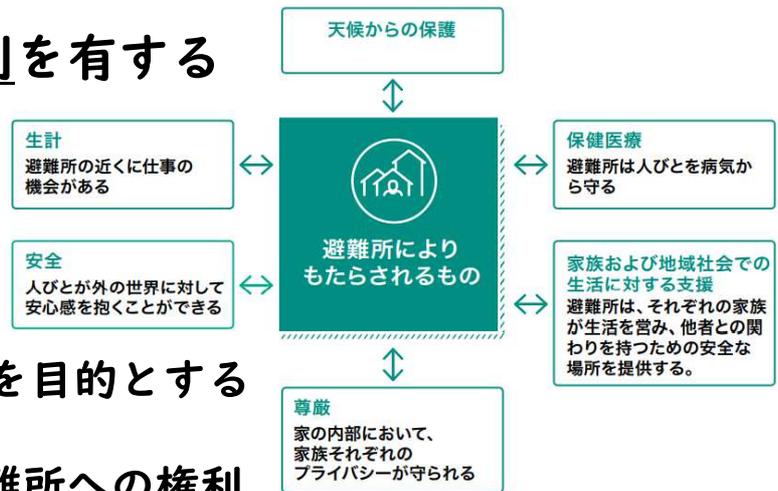
- ・ 1992年法律第225号「災害防護国民サービス (servizionazionale della protezione civile) 設置法」が成立
- ・ 自然災害、大惨事及びその他の災害事態によってもたらされる被害やそのリスクから生命の安全・財産・住居・環境を保護する目的

小谷眞男(2009):イタリアにおける大規模災害と公共政策 - 2009年アブルツォ州震災の事例を中心に -
<https://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/data/pdf/19954605.pdf>

スフィア・ハンドブック

避難所および避難先の居住地に関する基本的概念

- すべての人びとは、
適切な居住への権利を有する



- 避難所と避難先の居住地における支援は
安全な生活環境の提供を目的とする
- 国際法により適切な避難所への権利は明確に保護されている

国際人権と日本の人権教育

- ✓ 生まれてきた人間すべてに対して、その能力を発揮できるように、
政府はそれを助ける義務がある。その助けを要求する権利が人権。
人権は誰にでもある。
- ✓ 政府の三つの義務
 - ①人がすることを尊重し、不当に制限しないこと「尊重義務」respect
 - ②人を虐待から守ること「保護義務」protect
 - ③人が能力を発揮できる条件を整えること「充足義務」fulful

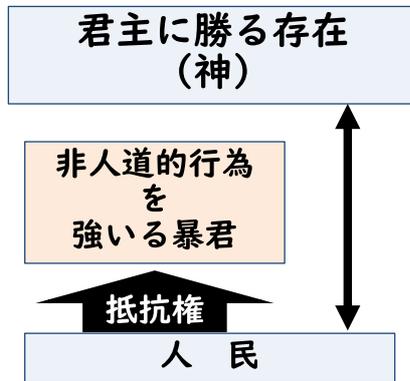
日本の「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」

- ✓ 人権教育とは「人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動」として定義される
- ✓ 個人が優しさや思いやりをはぐくむことを目的とした「優しさや・思いやりアプローチ」を強調

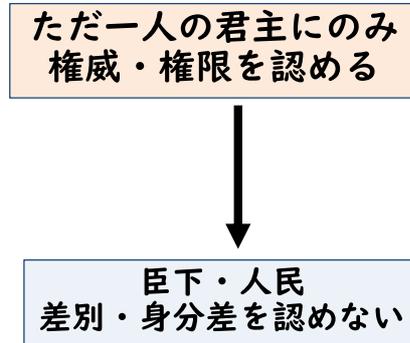
*日本の人権意識では、災害対応も思いやり、つまり自助・共助・ボランティア頼みとなるのではないか

欧米型の人権と日本の人権

欧米型の人権



日本人の人権意識の背景 〈一君万民の平等思想〉



人権意識を高める

- 哲学
- 倫理観
- 共感性

森島豊：抵抗権と人権の思想史 欧米型と天皇型の攻防, 教文館, 2020.

- 2017年国連人権理事会による日本の人権状況の定期審査で218の勧告
 - ・ 同和問題やアイヌの人々への偏見や差別
 - ・ 技能実習生の低賃金労働や出入国在留管理局の非人道的対応
 - ・ ジェンダーギャップなど

マネジメントとリーダーシップ

- マネージするとは「何かを引き起こし、成し遂げ、義務や責任を引き受け実行すること」
- マネージャーは、**ものごとを正しく行う**
- 実務能力に基づく行動 (効率)

- リードするとは「人を感化し、方向や進路、行動、意見などをみちびくこと」
- リーダーは、**正しいことをする**
- ビジョンと判断に基づく行動 (効果)



Warren Bennis, Burt Nanus(2007)/伊東奈美子訳(2011). 本物のリーダーとは何か. 海と月社.

- 平時にできないことは、危機のときにもできない
- ものごとを正しく行うことで不作為の作為となる危険

～将来への課題～

避難者の生存権を保障できる避難所へ

日本国憲法 第25条 生存権、国の社会的使命

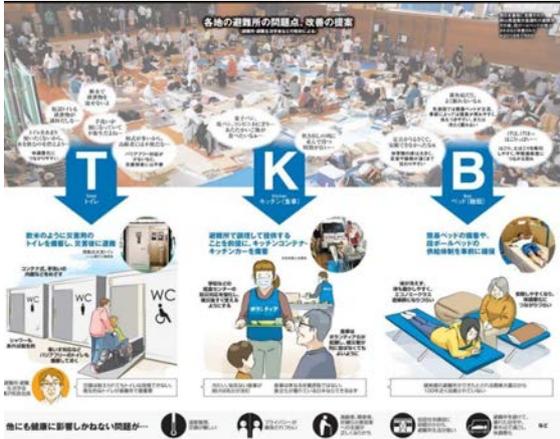
- 1、すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。
- 2、国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。

日本災害医学会 BHELP標準コース

1. 災害時に自分の命を守るための行動と備え
2. 被災した住民の命を守るための行動
 - 1 傷病者の救護：CSCATTT
 - 2 要配慮者の救護：CSCAHHH
Health care Triage ヘルケアトリアージ
Helping Hand 手を差し伸べる
Handover つなぐ
3. 避難所での住民の健康維持
 - 1 避難所の設営
 - 2 避難所の管理運営
 - 3 避難生活で生じやすい健康問題
4. 福祉避難所での要配慮者の健康維持
 - 1 福祉避難所開設
 - 2 福祉避難所の管理運営



避難所・避難生活学会 会員登録開始



2024年度学会開催

日程：12月7日(土), 8日(日)

会場：国際医療福祉大学
東京赤坂キャンパス

<https://dsrl.jp/>

国際医療福祉大学大学院 大学院生募集

医療福祉学研究所 保健医療学専攻 修士・博士課程

災害医療分野

災害時の保健医療は、チーム医療の推進や多職種による連携強化が図られるようになりました。

そこで、さまざまな保健・医療専門職や行政職等が、災害時の保健医療について系統的に学び、サブスペシャリティとして確立している修士課程・博士課程を開発しています。業務継続計画(BCP)やマニュアルの策定や見直し、災害訓練の評価方法、教育プログラム開発、組織マネジメントやリーダーシップのあり方などに、探求心と創造力をもって学術的に取り組む分野です。

また、災害時の保健医療に関連する学術分野で活躍されている著名な講師陣をお招きして、災害時の保健医療の知識やスキルを包括的に修得できるカリキュラム構成としています。



・ オンラインでの講義・研究指導

・ 講義：隔週金曜(18:00~21:15)
隔週土曜(10:40~18:00)
研究指導随時(日程調整)

・ 専門学校卒業でも文科省の基準を満たせば進学は可能です

・ 石井のメールアドレス
m-ishii@iuhw.ac.jp

【修士課程】
【修業年限】2年(修士:災害医療学)【募集人員】10名程度
【出願資格】一般入試の出願資格のいずれかの要件を満たす者で、災害時に危機管理、地域保健、地域防災の業務を推進している者(将来、当該業務に従事することを希望する者を含む)。
※専門学修を卒業された方2名以上の方で、本大学院の出願資格要件で大学院生と同等以上の学力があると認められた方も出願可能です。詳細は募集要項をご確認ください。

【修了要件】30単位以上修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

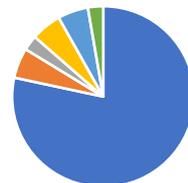
【修士課程】2022年度開校
【修業年限】3年(博士:災害医療学)【募集人員】3名程度
【出願資格】修士の学位または専門職学位を有する者。および今年度末までに修士の学位または専門職学位を得る見込みの者
※詳細は募集要項をご確認ください。

災害医療分野責任者

石井 美恵子 教授
博士(医学)
1995年米国で危機管理システムや災害医療を学び、教育や医療実践活動に従事。
主な研究テーマは、業務継続計画の策定と評価、危機管理とリーダーシップ、災害医療に関する教育プログラム開発とその評価、避難所対策と災害発生時の被災者支援。
日本災害医学学会理事、JICA国際緊急援助隊医療チーム総合調整部アドバイザー、災害人支援委員会(HuMA)アドバイザー、外務省女性学術推進委員会-学芸部に関する行動計画調整委員、東京都防災会議委員、東京都防災-仮住まい検討委員会、日経WOMAN「ウーマン・オブ・ザ・イヤー」2022大賞受賞。
主な災害支援活動:03年「ランパン」結露、04年スマトラ沖地震-津波災害、07年ジャワ島中部地震、08年中国四川大地震、09年東日本大震災/09年スマトラ中部地震、09年東日本地震、09年西日本豪雨災害

博士課程 特任教授

小井土 雄一 教授
博士(医学)
独立行政法人国立病院機構本部OMAT専任部長、専務局長。
埼玉医科大学医学部学長、日本医科大学 連携准教授、埼玉医科大学 専任教授、昭和医科大学 専任教授、愛知医科大学 専任教授、専務教授、東京医科歯科大学 専任教授、東京医科歯科大学 看護学研究所 臨床教授、公益財団法人国民生活センター シニアアドバイザー。
日本災害医学学会前代表理事(現理事)、JICA国際緊急援助隊医療チーム特別顧問、災害人支援委員会(HuMA)理事、日本・中華医学学会理事、日本・インドネシア医療連携協議会理事、国内外の災害派遣(国際緊急援助隊医療チーム副団長等)、JICA海外派遣(調査・セミナー)等々多数実施。



■ 看護師 ■ 薬剤師 ■ MSW ■ ME ■ 事務職 ■ 動物看護師

国際医療福祉大学大学院
INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE GRADUATE SCHOOL

■ 学生募集要項の請求・入試に関するご相談
東京赤坂キャンパス(入試事務局)
〒107-8402 東京都港区赤坂4-4-20
TEL: 03-6574-3000
Mail: daigakuin@iuhw.ac.jp

ご清聴ありがとうございました

質疑応答

参考図書

- ・小井土雄一,石井美恵子編集：災害看護学.メヂカルフレンド社.2020.
- ・小井土雄一,石井美恵子編集：多職種連携で支える災害医療.医学書院.2017.
- ・國井修,尾島俊之,石井美恵子編集：みんなで取り組む 災害時の保健・医療・福祉.南山堂.2022.



51

令和6年度福岡県自主防災組織・女性防火クラブ等リーダー研修会
【応用編】 講演資料

ふくおか防災クロスロード 「どっちにすると？」



福岡県消防防災指導課

ふくおか防災クロスロード 「どっちにすると？」



福岡県消防防災指導課



1 ゲームの目的

ふくおか防災クロスロード

○ ゲームの目的

災害を自分事ととらえ、参加者同士で様々な意見や価値観を共有する。

クロスロードとは？

Cross Road : 「岐路」、「分かれ道」
→災害対応は、ジレンマを伴う重大な**決断**の連続

【防災クロスロード】

ひとりひとりが災害時に直面する問題に対して決断
→自分と周囲の決断を**比較**する。

自分の決断が・・・

- ・**状況**に応じて変化する
- ・**他者**にとっての正解とは限らないことを知る。



2 防災クロスロード

ゲームの進め方

- ① 問題に対して **Yes/No** を選択
→自分の家庭、地域だったらどうする？
- ② **理由・条件**等を検討
→状況によって、選択が変わるかも？
- ③ グループ内で意見交換
→特に**少数派**の意見を聞いてみよう！
- ④ **全体発表**
→自分の班ではこんな意見が出た！

ゲームをはじめる前に・・・

①会場準備

配席図を参考に前後の机を合わせて班をつくりましょう。

②自己紹介

- ・ お名前
- ・ お住いの市町村、所属している団体
- ・ 今年の「夏」の楽しみ

※ **1人30秒**でお願いします！！

③役割分担

- ・ リーダー（進行役）
- ・ 発表者

ゲームのお約束

・ひとりの発表が終わったら**拍手**をする。質問やリアクションは積極的に！

・他人の意見を**否定しない**！

・問題は状況が曖昧に書かれているところがあります。自分ならどうするか**想像**を膨らませながら考えましょう！

・大雨で「**避難指示**」が発表されているが、雨の降り方が激しく避難は難しいと判断し、自宅に留まっています。

・雨が小降りになったので、このタイミングであれば避難はできそうです。しかし、避難所までの経路にある**河川**の状況は把握できていません。

あなたは避難所に避難しますか？

避難する方は…**YES**

避難しない方は…**NO**

雨が小降りになったタイミングで避難所に避難しますか？

YES(避難する) / **NO(避難しない)**

理由	条件
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
問題点	事前にできることは・・・
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・

- あなたは山のふもとで暮らしています。
- 大雨の予報であったが、日中は小雨であり、自宅に留まっていた。ところが、深夜になって雨脚が強まり、「土砂災害警戒情報」が発表されました。
- 避難するにも外は真っ暗で何も見えません。

あなたは避難所に避難しますか？

避難する方は…YES

避難しない方は…NO

深夜でも避難所に避難しますか？

YES(避難する) / NO(避難しない)

理由	条件
<ul style="list-style-type: none"> • • • 	<ul style="list-style-type: none"> • • •
問題点	事前にできることは・・・
<ul style="list-style-type: none"> • • • 	<ul style="list-style-type: none"> • • •

・あなたは住宅街で寝たきりの妻と一緒に住んでいます。

・浸水が始まっているが、地域の人たちに妻を避難所まで運んでほしいと言いだしにくい。

あなたは自宅に留まりますか？

留まる方は…YES

留まらない方は…NO

浸水がはじまったが、寝たきりの家族と家に留まりますか？

YES(留まる) / NO(留まらない)

理由	条件
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
問題点	事前にできることは・・・
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・

- ・あなたは大雨に備えて**自主避難**を検討しています。
- ・家族同然に生活している**モモちゃん**(ラブラドルレトリバー、メス3歳)がいます。
- ・避難所では、同じスペースでモモちゃんと過ごすことができません。(ペット専用のスペースで他のペットと生活する)

あなたは一緒に避難所に連れていきますか？

連れていく方は…**YES**

連れて行かない方は…**NO**

避難所にペットを連れていきますか？

YES(連れていく) / **NO(連れていかない)**

理由	条件
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
問題点	事前にできることは・・・
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・

- ・大地震でわが家は**半壊状態**です。
- ・**感染症**(新型コロナウイルスやインフルエンザ)が増えてきているとの報道がされており、あなたが避難してきた避難所でも大流行しています。

あなたは避難所を出て家に戻りますか？

家に戻る方は…**YES**

家に戻らない方は…**NO**

避難所で感染症が大流行。半壊の自宅に戻りますか？

YES(戻る) / **NO(戻らない)**

理由	条件
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
問題点	事前にできることは・・・
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・

- ・避難所を開設し**トイレ**の準備を行っています。
- ・**性的少数者**の方に配慮して男性用、女性用に加えて誰でも使用できるトイレを準備すべきだとの意見があります。
- ・しかし、トイレに限りがあり、**混雑**する、**防犯対策**をどうするのか等の課題もあります。
- ・また、配慮が必要な方の**申し出**を受けてからの準備で良いのではという意見がある。

あなたは多目的トイレを準備しますか？

準備する方は…**YES**

準備しない方は…**NO**

性的少数者に配慮したトイレを準備しますか？

YES(準備する) / **NO(準備しない)**

理由	条件
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
問題点	事前にできることは・・・
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・

- ・避難所に**パーティション**を設置するかどうか避難者に意見を伺っています。
- ・「地域の**顔見知りばかり**の避難所であり、わざわざプライバシー保護する必要があるのか。」「皆の健康状況もないほうがすぐにわかる。」との意見が大多数です。
- ・しかし、パーティションがあった方が良いと思っている人もいるかもしれません。

あなたはパーティションを準備しますか？

準備する方は…**YES**

準備しない方は…**NO**

顔見知りばかりの避難所でパーティションは準備しますか？

YES(準備する) / **NO(準備しない)**

理由	条件
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
問題点	事前にできることは・・・
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・

- ・避難所に**200名**が避難してきています。
- ・現時点で確保している食料は**100名分**で、以降の見通しは今のところ立っていません。

あなたは食料を配りますか？

配る方は…**YES**

配らない方は…**NO**

全員分の食料がないが、食料を配り始めますか？

YES(配る) / **NO(配らない)**

理由	条件
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
問題点	事前にできることは・・・
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・

ゲームの振り返り

グループ内で本日の感想を自由に発表しましょう。

- ・ 迷った問題、即決した問題
- ・ 自分と周囲の意見が違っていたこと
周囲の意見で意外だと感じたこと
- ・ あなたが実際に経験したジレンマ などなど

※ **1人1分**でお願いします！！

○ まとめ 「ふくおか災害クロスロード」

1 様々な意見や価値観がある

少数で対応を判断せず、周囲の人の**考え(価値観)**にも耳を傾ける。
家庭や地域の状況によって、判断がまったく異なることがある。

2 状況によって「正解」が変わる

過去の成功事例でも、常に正しいとは限らない。
臨機応変に状況に応じた最適解を探す。



お住いの地域でも試してみてください！

→実際に起こりそうな、判断が難しい状況を想定することがポイント



福岡県

総務部防災危機管理局
消防防災指導課
(防災指導係)

郵便番号 812-8577
福岡県福岡市博多区東公園7番7号
電話番号 (092)643-3113
<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/>